



# 視点 21

「61回展の印象」

棚橋修次

「祝60回展」の大きな節目を盛会裡に終わらせた昨年の一陽展を基盤に、より活性化と向上心を秘めて61回展に尽力された方々の任務分担を主に視点や所見を含めて記します。

**搬入受付** 作業担当の方が速やかに処理するので順調に進行した。また今回は新人・会友の出品表が明快であったのと、新人の出品が多く感じられたのが印象に残っている。

ただ、少し作業時間の考慮を望みます。

**審査進行** 全体的に作品は充実してきた、初出品の方に良い作品が多くなっている。審査も多々異論は推測できるが、良い審査進行ができたようだ。

**会場の陳列** 事前の部屋割は予備会議で委員・会員の設営をし、会友・一般の作品は審査の時点で適宜設営しているので、多少不満のある方もいると思う。しかし、外部からの入場者からは「一陽会の会場は穏やかで気分良く拝見できます」また「一陽会は主題の中とか多様性が特にこの頃は良く面白いと思う」という言葉も多く聞かれた。



今展では一般出品者の中に目立って優秀な新人が4、5人初出品していたことは、大変喜ばしいことであった。作家としての考え方や力量も十分備えた作品を出品していた。今迄に独自の作家活動を行っていた人達のようなようです。この事は多くの会員・会友の方々にとっても大きな刺激になったものと思います。現在、一陽会も委員・会員・会友を合わせて400名を越え、中堅の美術団体としての体制は整いつつあります。よってこれからは出品者を増やし、作品のレベルアップが肝要であるかと思えます。陳列作業について、新しく参加される会員も分かるように陳列作業の責任者より手順の十分な説明が必要かと思えます。特にキャプション（名札）の取り付け作業は陳列早見表と係が連動して作業を進めて行



けば、より早く取り付ける事が出来るのではないかと思います。

**会場受付** 一般の入場者が多数あり、今回は外国人の来場も多く、展示作品に興味を示したスピーチや質問などを受けたりして、楽しい交流の状景もあり、今後の開催に向けて期待したい。また、初日のギャラリートークや個人解説に関心を持って来場される方も多いようです。

**特別展示室** 「私にとってのドローイング・デッサン」のコーナーは、作家のタブローとしてのデッサン関係、ドローイング

中にも訓練的要素を含み、作品としての完成、またデッサンの中にも完成作品として制作され、参考になる企画展示です。この展示場所をアピール出来るような誘導と工夫が必要と思えます。

**編集部門** 名簿作成の担当として昨年度より出品表が変更になり、係としてコピー作業が無くなりスムーズに流れるようになった。

第61回展も盛会に終わったことを祝します。



鈴木信太郎賞

絵画部会員 古野 恵美子



行列をする人々、棚に並んだ瓶…。

水平線と高さの変化が生み出すリズムがなぜか気にかかる。画面上の構成を考える時、もっと自由であっても良いのにも思うのだが、なぜかいつも水平の並びに収まっている。思えば長い間そのようなモチーフに心惹かれている。

最近、あるかなさかの高低の変化と、空間が調和する時、ささやかな人の営みと大きな時空が一つの空間として描出できないかと筆を動かしているが、果たして描ききれているのか。今回の作品は、垂直の要素を画面の中に取り込み、横への広がりと同時に上空への志向を表現できたらと、自身としては新しい試みに挑戦した画面であった。

今後も、鈴木信太郎先生のような自在な境地に憧れつつ、自身のバランスを少しずつ揺らしながら描いていきたいと思う。

野間仁根賞

絵画部会員 田中正秋



美大の3年に在学中、銅版画を習いに谷中の野間伝治先生宅に通いました。版画との出会いは楽しいもので結局のめり込む結果になってしまい、薦められて一陽会に出品するようになりました。今回その様な縁ある賞を頂き感慨深い思いがします。

会場では、出品作が初めて第1室に飾られました。思い出すのは45年前、版画を始めた頃は油絵を主に描いており、大学の親しい先生方が所属していた主体美術に出品を始めていた正に青春時代！卒業後助手をしながら出品した120号2点が前年に続き受賞し、第1室の正面に2点並んで展示され、会員候補に推挙されました。その後は版画制作に日々明け暮れ、油絵からは離れてしまいましたが、昔の光景が蘇った様でまた次も頑張ろうじゃないかと改めて思う次第です。

高岡徳太郎賞

絵画部会員 松村 一夫



絵を描くより陶芸が楽しい。上を触っている時の解放感。「次はこんなことをしたろ」と次々と制作意欲もわいてきます。知らず知らずのうちに自分の顔がにやついているのがわかります。この楽しいお気軽感は何なのでしょう。できた作品は何かの写しのような作品もありますが、そんなことはお構いなし。並んだ作品を眺めて悦に入っています。

ただ絵はそういうわけにはいきません。毎回苦悩がつきまといまいます。しかし、陶芸に向かっている時のような気持ちは大事だと思っています。今までも遊び心と新しい試みを持つことで、次の作品へのエネルギーになっていたように思います。

これからも制作の中楽しむことを忘れず、絶えず好奇心とやる気を持って作品制作に励みたいと思います。

植木 力賞

彫刻部運営委員 六崎 敏光



彫刻部創設者の植木力先生は大正2年生まれですから本年103才になられます。

平成14年、第48回一陽展の年に89才で亡くなりました。今から62年前に二科会を出て一陽会を立ち上げたときは、絵画部だけでなく彫刻部も参加したのです。

その時の植木先生は41才でした。新会派を誕生させたいという熱い思いに、彫刻部も一緒に行動しようと決断した植木先生の勇気は本当にすごいものだったと感動し、興奮を覚えます。あらためて植木力賞の重さを心に受けとめて、先生のご意思を次代に伝えていかなければと思っています。

久しぶりに先生を思いおこさせる賞でした。これからも内容ある彫刻集団であるよう、皆さんで頑張りたいと思います。



スカラベとは……???

別名タマオシコガネ、コガネ虫科の甲虫の一種。ファーブルの『昆虫記』で有名。この虫を意味する語が生成の意味にも通じ、天地創造の神、また球状の玉を転がす習性から古代エジプトでは太陽の神の象徴として神聖視され、これを型どって護符とした。護符は貴石や陶器などで作られ、装飾品や印章としても用いられた。ミイラの心臓の上に置かれたものは、復活を祈願するという意味をもつ。(広辞苑、および百科辞典マイペディアより抜粋)

美術団体一陽会を創立した際、シンボルマークとしてスカラベを冠したことは、大先輩の諸先生たちの慧眼にほかならない。一時はこのスカラベを軽視するかの様な向きもあったが、反省と自戒を込めて第59回展で、まさしく復活したのである。

スカラベ賞 絵画部委員 小木曾 雅子



スカラベは古代エジプトではその習性が太陽神ケプリと近似したものであることから同一視されて来たと言われているそうです。

由緒ある賞をいただき、ともすると後退する自分に反省し、これからは自分なりに努力して、スカラベの様にコツコツと描き続けたいと思っています。

試行錯誤を繰り返しながら……。昔、鈴木信太郎先生が絵を描くことは、めしを食うより楽しいと言っていたのを思い出しています。



スカラベ賞 絵画部会員 岩永 勝彦

大学生から一陽展に出品し始めましたが、60年間の長い絵画人生の中で一度きりの大転換期について触れてみたいと思います。

昭和30年代は、映像・マスコミの発展で西洋文化が一度に日本に流入しました。絵画もシュール・アンフォルムなど目新しいものばかりで、殆どの画家が流行に遅れまいと抽象形に走りまわりました。私も具象からアンフォルムまがいの作品に変わりました。数年続けたものの制作に行きづまってしまいました。

こんな時期に焼物作りを始めた事で古美術が好きになりました。日本には古代から世界に負けない、すばらしい文化風習が根付いている事を知りました。それが日本人の心を育てているのだと悟りました。

外見ではなく日本人の心を描かなければという強い信念が生まれました。日本人としての反省精神かも知れません。大転換した直後の作品が、幸運にも一陽賞をいただきました。深酒後に立寄ったラーメン屋台の絵です。36才の時でしたが、以来私は下町の哀愁を、日本古来の風物を通して一貫して描いています。追記、色彩が緑色主体になったのも、古九谷五彩の影響です。

スカラベ賞 絵画部委員 碓田 順彦



“ザクザク”と草を刈る鎌の刃が私の人差し指に食い込み、見る見るシャツが朱に染まる。昭和20年夏、私の生家近くの国鉄長野工場が空襲に遭い、国民学校1年生(7歳)の私は独り親元から離され佐久地方に疎開。村の子供たちから仲間はずれされて孤独な日々を送る。ある朝、近くの千曲川岸で兎の餌にする草を刈っている時の事であった。それから長い間、冬になると血がしみ疼くのであった。

一方、嫁いで満州に渡っていた17歳上の姉は、敗戦後、満人やロシア軍の襲撃に遭い食料を奪われ、髪は丸刈りにして逃亡中に高熱を出し、気がつく頃には赤子が冷たくなっていた。

戦争は世界から尊い命を奪う。人類の歴史の“彷徨”を思う時、大陸にわが子を埋めて来た姉の胸中、私の変形した指先、70年前の体験は私の絵のテーマの根底を流れ、平和への願いを絵筆に込めて彷徨の旅を続けている。



スカラベ賞 彫刻部企画運営委員 佐々木 英夫

私の一陽会初出品から優に半世紀を越えた。大学の卒業年度の記念に、授業等で造りためていた作品を、中央で見てもらおうと、その頃一陽会彫刻部に活躍していた二年先輩のSさんに声をかけたのがきっかけであった。

当時の公募展は、なかなか権威があり、美術家への登竜門的存在で新聞の全国版に作品評が載ったり、テレビなどでも紹介されたものである。私のいた大学でもその時期になると、実習室で泊りがけで制作し、トラックに満載して搬入した風景を思い出す。

審査結果は厳しく、殆どが落選。入選者は数名で、指導教官が落選することもなかった。それでも学生と一緒に真剣勝負に立会ってくれた悟りをさすがに感じる、という純粋な青春の一コマでもあった。

先輩を通して一陽会に心を動かされたことは、時の創立会員たちの自由な作風であり、まさに眼からうろこ…の経験をさせてもらったことである。彫刻の植木先生、絵画の鈴木信太郎先生の作品からは、私なりに言えば、文人彫刻・文人絵画でも云うか、こんなに伸びのびとした自由な表現が許されるの?の思いであり、さらに目を転じると社会派あり、アンフォルムありの混然とした中で、どの作品も自身を主張していることを感じ、ここなら自分に合うのではないかと云うのが主因だったと思う。結果は五点搬入、入選は「首」一点で、さすがに中央は厳しかったが、この甘さを知るのは後年のことである。

最後にスカラベについて一考。スカラベに見られるユーモラスな生活の姿から、古代の民は、その後の人類の発展と負の部分に見られる現代の地球の姿を、予測していたのであろうか?

## 一陽賞



絵画部 生田裕人

私は小さい頃から絵を描くのが好きで、小学生の時はテストの裏の白い余白にラクガキすることに心血を注いでいて、表の問題を一気にやってバサッと裏返しにして時間いっぱい友達に似顔絵や飛行機を描いていました。今もあの頃と変わらず、毎日昼間の仕事を必死で終わらせ、残った時間をかき集めて絵を描いています。でも最近はその時間が30分もないような日ばかり。現実には厳しいですね…。ただ、時間があれば良いわけではないことも確かです。筆を動かす力は、心の震えから来る気がします…。「眠る公園」は私の心の公園です。みんな帰ってしまって、誰も居ません。寂しさや恐怖が居残って、私の周りを飛び交います。その時、思うのです。一人で戦うしかない、夜が明けるときまで。また同時に思うのです。絵をやっていてよかった、明けぬ夜はない…。

## 青麦賞



絵画部 横山瑞歩

これまでに女性とシーラカンス、アンモナイトを組み合わせた作品をいくつか描いてきました。非現実的な空間や風景に、古くから存在している生物と少女を組み合わせることにより、時間が流れていくさまや記憶を表現したいと思っています。

青麦賞をいただいた「不確かな夢」は、時間が過ぎていく中で眠っている記憶をイメージしています。この作品はキャンパスに向かうまでに何ヶ月もかかりました。同じテーマ、モチーフで展開させていく事の難しさ、表現方法や技術の未熟さを痛感し、今までで一番大変で苦しいと感じることが多かったのですが、良い結果になってよかったです。

これからも精進していきたいと思っています。

## 会友賞



絵画部 緒方かおる

あれは2011年、一陽会に出品している友人からの誘いだった。公募展に出してみようか？どこにしようか？と迷っているなら一陽会に出してみたら？一言だった。都美館と新美術館を行き来しながら悩んでいた私には背中を押してくれた言葉だった。感謝。

初出品の作品が展示された時のドキドキ感と恥ずかしさは今も忘れないし、5回目の現在も会場で感じる気持ちは変わらない。私はいつも初心者なのだ。描いているものは今の私。初出品の作品を観た方が「ここはコラージュまじいよ！」の言葉に愕然としたが、貼り付けることで今の私は魂を画面に投入できる。筆じゃなく指と全身で素材、そして自分自身と闘っているのだと思う。

まだまだ試行錯誤の最中の私に会友賞ありがとうございました。今後へのプレッシャーにさせていただきます。

## 会友賞



絵画部 白崎榮子

会友賞の一報にびっくり、本当に私の絵がとしばらくは震えが止まりませんでした。一陽展出品歴は5回という未熟な私が、この賞の重圧に今でも身の引き締まる思いをしています。初出品の時、絵の題材にどうかと佐川先生から芽の出たじゃがいもを頂きました。そのじゃがいもは萎びてもなお生き伸びようと新しい芽を出しており、思わず生命の神秘性に憑かれ魅かれて描いてみたいという思いにとらわれました。この出会いが私の作品のテーマ「生命力」になりました。

今回の作品は野菜を題材に描くようになって、主人が丹精込めている家庭菜園に自然と目が向くようになり、ある夏の日真っ赤に熟したトマトに惹きつけられ描いたものです。

これからも何気ない日々の中に生命の感動を見出し、それを表現していきたいと思っています。

## 一陽賞



彫刻部 清水紀子

## 青麦賞



彫刻部 清水啓一郎

今作は娘のために描いた絵本の一場面を立体にしようという試みでした。

家出した我が家のネコが旅の先々で出会いと経験を重ね、少しだけ大人になって帰るといふ物語の中の、海に落ちたところをマンタに助けられるシーンです。絵本を読んだ娘が実際に触れられる形でもう一度物語りに出会う時、立体の面白さや可能性を体感してくれるのではないかと期待してのことです。このような家族への愛を素直に形にした作品に対し素晴らしい賞をいただいたことは大変光栄で、励まされるとともに身の引き締まる思いしております。

## 会友賞



絵画部 赤川雅俊

専門教育も定まった師も無い一介の素人が、まさに手探りで今日まで来ている。「継続は力なり」とは言うが、良くも続いている。不思議だ。その根源は何だろうか、今回の受賞で改めて考えてみた…ものの実は良く分からない。特に明確な社会的主張や、野心があるとも思えない。何故描く？巷間溢れる情報機器の恩恵(?)で、今や指先の軽いタッチ一つが、無限の楽しみも新たな世界も、多様なアートさえ生み出すこの時代に、よりによって猛暑酷暑、100号のキャンバス一枚動かすに苦勞な空間で、色を弄り筆を弄り、画材の飛び散り汚れに気も使いつつ、手間も暇もかけて、行きつ戻りつしながら画布に向かう自画像は、アナログ極まりない？我ながら時代錯誤？時間の浪費？遅れたアート？いやいや、そこにこそ？それだからこそ？苦笑苦笑苦笑。。。

## 会友賞



絵画部 坂本真左子

「え、なんで？何かの間違いかな。」これが会友賞受賞の一報をいただいた時の第一声。巖の質感が出せない、藻の透き通る柔らかさが表現出来ない等の課題に四苦八苦。更には、巖と藻が対話するならどんな言葉を交わすだろう、互いの存在を認め合える関係になっているのだろうかと考え込んでしまい、なかなか筆が進みませんでした。

地球の造形美、壮大な威容に魅せられて巖へのめり込んでいったのは絵画教室へ通い始めてしばらく経った頃。しかし巖を前にして感動したことをそのままキャンパスに表現することは難しく、技術面の向上を目指さなければいけませんでした。

これからも技術力を高め表現の幅を広げて少なくとも自分が納得できる絵を描けるようになりたいです。冒頭のような感想をもたなくてもよいように。


## 会友賞



絵画部 仙田清

ここ数年、家の前の蓮の絵を描いています。若芽、若葉、初夏の花、そして枯葉。その水面は小さな虫、魚の背びれ、水鳥によって様々な波紋を生じ、絶えず揺れています。太陽の光が雲によって翳り、風が吹いて、わずかな光の変化が水面を虹色に輝かせたり、枯れた蓮の色を反射させて暖かいハーモニーを奏でたりと…。こうした気持ちの端を表したのがこの「薄氷」です。半ば溶けた薄い氷が光り輝いています。毎日見っていますが、やはり冬の池は寂しく冷たいです。

私はモーツァルトが好きで描きながら聞いています。冷たい空気の中でその曲が一瞬囁くのです。私の人生観と相俟って、囁くのはほんの一瞬でしかありません。儂い夢の中でしかありません。しかしこの夢を持って、これからも蓮を浮かべる水面を描いて行こうと思います。


 絵描き黎明期

絵画部 会員 横須賀 康子



中学3年の美術授業、ミロのビーナス鉛筆デッサン。後ろに立たれた先生が言われた。「あなた、美大に行ったら伸びるかも」鉛筆を持った手が止まり、足元から熱い火柱が頭蓋骨まで立ち上ってきた。その一言に、還暦を過ぎたこの齢まで悲しいくらい縋り付いている。計算出来ない、漢字書けない、逆上がり出来ない、音符読めない。友人達の文系だの、理系に行きたいだのの会話に、向かいの高校校舎をぼんやり見ている毎日だった。絵を描くのは幼い頃から好きだったが、中学校での難しくなる授業に付いて行けず、ノートに描いた先生の姿、友人の寝顔、自分の手、逃避と授業に対する罪でしかなかった私の絵。美大だって！伸びるかも？だって！黒髪をアップにした淡路恵子似、黒淵の吊り上ったメガネ、仏国帰りの美術教師。こんな大切な一言いって良かったのですか。中学3年の節分が過ぎた頃、画装店の紹介で茅ヶ崎の画家に、受験のための油彩画と木炭デッサンを習いに通い始めた。キャンバスの張り方、絵具のとき方、パレットの使い方、筆の洗いかた。カルトンに挟んだ木炭用紙にNo1とふった無残なアリアス。聡明な美しさと育ちの良さをそなえた、31歳。両親、独身の姉、夫、小学生の長男、幼稚園の長女、犬も猫もいた。毎週土曜の学校帰り、3年間私は通った。階段を上って、下って、踊り場にうずくまって。先生は褒めた。気を良くして、また上った。芸大の学生時代の絵やデッサンを参考に見せてくれた。私のとは違っていた。3人の受験生をもっていたので、試験が近くなると胃が痛くなるのは先生だった。絵で落ちることは無いと励ましてくれたが学科が余りに出来なかった。希望の所へは入れなかった。やっと高校も卒業できた。美大に行ったら・・・の扉は開かれた。元美術教師、木下寿々子は平成11年冬、94歳、帰天。茅ヶ崎の先生、岩本和子は傘寿を過ぎた。半世紀近く、未だ黎明期の私を見守って下さっている。



 仕事場雑感

彫刻部 運営委員 神山 茂樹

私の仕事場は畑の中にある。暖かくなると色々な小動物が現れる。トカゲ、野ネズミ、ムカデ、モグラ。ヤモリは何代目だろうか、引き出しの裏で見つけた20個程の卵は、半分以上孵っていた。相当数住んでいるだろう。蜂には頭と背中を刺され医者にいくはめにもなった。表にあるトイレのドアを開けたとたん、かま首をもたげた大きな蛇と目が合って腰を抜かしそうになった事もある。2m以上はあったろう。畑のおばさんたちが、農具箱の中でとぐろを巻いていたと騒いでいたヤツだろう。確かに獲物は豊富だ。仕事の先行きが見えて来ると第三者の意見を聞きたくなる。たいていが身近な女房になる。彼女は絵を描くしデッサン力もあると思う。気になる所をズバリ指摘されると腹がたつ。つい喧嘩になる。しかし性懲りも無く毎回同じ事を繰り返している。高校生だった愚息を作品梱包の手伝いに呼んだ事がある。その時の感想が一言、「オーラが無い」とぬかしやがった。61回展の自分の案内状を回収していると、手渡した記憶のない名前があった。「アベシズエ」ん！歌手のアベ？ もう一人は「サトウチエコ」若い時に振られた女性だ。40年も会ってない。まさか観に来てくれたのか？頭に妄想が駆け巡った。が、2、3日して気がついた。いつも野菜を差し入れてくれるオバサンは、そうだ「阿部ちゃん」だ。その向かいの畑のオバサンが「佐藤さん」だ。案内状も渡している。一気に解決してスッキリしたが、もうちょっと夢を見ていたかった気もする。名は体を現さない。一陽会の名称の由来の一つと言われる穴八幡宮、一陽来復の御札が仕事場と自宅に貼ってある。父親の代からである。ここ10年来、女房とF女史との三人で穴八幡へ参り、その後、博識のF女史の講釈を聞きながらの東京見物が恒例になっている。昨年末は、深川不動尊、富岡八幡宮、清澄庭園のコースであった。途中の法乗院閻魔堂では巨大な赤い顔の閻魔様の前に目的別の賽銭箱「カップ」が十数個並んでいた。賽銭を入れると加山雄三似のお声が流れるハイテクぶりだ。私は夫婦円満に入れたのだが、女房は金運に入れていた。そうか、金運が良けりゃ夫婦も円満か？



会員 推 挙

絵画部

阿部 正子

石川で一陽会の人達と出会い、仲間に加えていただき、今に続いております。初入選は49回展でした。54回展で奨励賞、55回展で会友推挙と、諸先生方の御指導に大変感謝しております。61回展で会員推挙の報せに足がふるえました。この喜びを忘れず、これからも努力精進してまいります。



会員 推 挙

絵画部

荒井 哲夫

住いがカドミウム汚染公害に見舞われた地域なので、特に環境問題に関心が向くようです。鉍毒排水で汚染された河川の水利がもたらす怖さを、奇態となった植物に見立て【奇妙な果実】と題し描いています。温暖化は地球規模の話ですが、まずは地域の環境を保全しましょう。安全でおいしい食べ物やお酒が戴けません。



会員 推 挙

絵画部

岩島 謹司

田舎暮らしで数十年、山間に育つ「大麦」に何かを感じる。食の主役になれず踏みつけられて根を張る、頑張り。日々の変化に薄らいで行くものを、もう少し見つめたい。それが自然であろうが、過去の産物だろうか。



会員 推 挙

絵画部

岩田 明美

「で、何の絵を出品したの？」と友人に聞かれた。なぜ、いつも流木ばかり描くの？って、顔で。思えば・・・木は昔から好き。庭の木や、京都の古いお寺の柱も触ると温かくて癒されていた。まして流木は、尖ったり、丸かったりの形がドラマを語っている。それを表現出来ず、もどかしい時ばかり。それでも描き続けられたら幸せ。



会員 推 挙

絵画部

金田 千佳

「生きること、生きていること、生き抜くこと」全てが美しい。誰にでもある「苦・嘆・悩」。どんな荒波が来ようとも流されず「力強く、懸命に、生き抜く」ことを伝えたい。一陽会に入り、5年。ものの見方は、ひとつではないことも学んだ。多様な視点を持った絵描きになりたい。



会員 推 挙

絵画部

加納 勝子

大量生産、大量消費、大量廃棄の象徴として、ビール缶に注目しています。空き缶たちが迎える、最後の瞬間の輝きを見逃すまいと。その表現にガラス絵の透明感にも期待して。8年前から体調を崩し、一時描く気力を失いましたが、会の皆様のお励ましによって続けることが出来たことを感謝致します。



会員 推 挙

絵画部

児玉 常聖

青天の霹靂が、会員推挙をいただき、実力がともなっているのか、チョット不安になりました。空間を黒一色でどれくらい深く描けるかが、今の私のテーマです。私の絵は色の使い方が原色一辺倒になる傾向があるため、光と影と空間とかが、風の操作に依って、どの様に変化するか楽しみ乍ら描いている毎日です。思っている世界を描ける事が一致すると良いのですが・・・鉛筆だけで描き続ける事も良い方法だからガンバってみてはという言葉を追いかけています。少しでも地域の一陽会の仲間達に返せる事があればと思っております。



会員 推 挙

絵画部

菅野 操

「ブーツの菅野さん」と呼んでいたが、靴物語を描き始めて早や11年になりました。二作目出展で青麦賞を頂き、その後悩みながらも大作に挑戦してきました。今回の出品は肩の力を抜いて描いた作品であり、この絵で会員推挙頂いて大変光栄に思っております。年月と共に作品に対する思いも変わり、又仕事との両立は厳しいものもありますが、これからも靴物語に夢をもって挑戦し、挑んでいきたいと思っております。



会員推挙

絵画部

菅原 礼子

インドの灼熱の太陽の下、荒れ果てて今にも崩壊しそうな地底寺院。植物の生命力に負け根と草むらに覆われ、それら形ある物はすべて大地に還っていく。我々人間もしかり。

限りある時間をいかに自分らしく心豊かに生きるか？一陽会の皆様から刺激を頂きながら、確かな目を養い、努力していきたいと思っています。



会員推挙

絵画部

内藤 汎

このところ、音楽のような絵を描きたいと漠然と考えています。モデルや、主張を持たずに線と形と色を自分の感情に任せて、キャンパスに置いていく。自分が興奮したり、緊張感やリズム感があつたり、面白いと思うものを描く。そして自分以外の人がどう感ずるのかを試したいと考えています。



会員推挙

絵画部

中西 せつ子

長い間、名古屋から出品していましたが、現在は古里、三重から出品しています。

今の絵のテーマは、かつて飼っていた猫との思い出です。搬出日ぎりぎりに仕上げる事が多く、もう少し計画的に、じっくり取り組まないと反省ばかりです。



会員推挙

絵画部

野澤 宣夫

還暦を迎え過去を振り返ってみると、20代—スケッチブックを片手に東北、北海道を車や夜行列車で勝手気ままにスケッチ旅行。

30代—仕事が忙しく絵に集中出来なくて一陽会出品を数年休んでしまった。そんな時、知る人ぞ知る故小林源次先生からの電話、「野澤君、そろそろ出品しないと描けなくなるよ」と、暖かい言葉に反省頻り…。

40、50代—仕事仲間とイタリア、フランス、石の文化を探索、変化に富んだ町並は美しかった。

60代—今まで溜めた心象風景、消化して自身の絵を描かなくてはと思う。



会員推挙

絵画部

野田 美子

23年前に今の師との出会いがあった。絵に対する考え方に戸惑っていた私に、感性を磨くためギャラリー巡りを勧めて下さった。ギャラリー、美術館、各地のトリエンナーレにも家族と出かけ楽しんだ。日常にもアート心を取り入れた。こうして描く絵にも変化が現れるようになった。今あるのは、師のお陰と感謝しております。



会員推挙

絵画部

真木 康至

初出品は第28回展。佐川先生に「入選しなければ結婚もダメよ。」と励まし、脅しとも思える言葉にも奮起しながら、ただひたすら描いていました。今回大きくテーマを転換しましたが、現代社会の様々な事象を、いろんな目線で示唆しつつ、自分らしく新しい表現方法を模索して描いていきたいと思っています。



会員推挙

絵画部

丸山 敦子

私は心の風景を描いています。制作に入る前は、心を研ぎ澄まし、心が今どんな風景を描いているのか、深く見つめながらエスキースを重ね、一つの絵を創り出しています。絵を描くことは自分自身を描くこと。生れ育った三重県の風景、仕事と子育てに奮闘した富山県の風景。これからも様々な思いを胸に制作を続けていきたいと思っています。



会員推挙

絵画部

村上 禮子

「愛読書は一陽会の画集のみ」が口癖だった森秀雄先生が亡くなる二ヶ月前、米原の長い新幹線ホームを苦しそうに歩きながら「一陽会の歴史ある崇高な精神を保守し常に斬新さも追求」と言われた。今この森先生の言葉が脳裏に浮かび目に見えない重圧に体が疎む。今回の会員推挙は実績も才能もない私にとって焦燥と苦悩が伴う辛い日々の始まりだ。



会員推挙

版画部

小林 ミイラ

本名は小林美佐子と申しますが、全く同姓同名の版画家がデビューしてしまっていたので、名前を変えるように、一陽会を紹介して下さった故岡琳世先生（銅版画工房主宰者）から言われ、小林ミイラと名付けられ、今に至ります。ここ最近身近な食べ物が、心が安らぐ気がして、しばらく続けていこうと思っています。



会員推挙

版画部

椿 智美

9月の終わりの国立新美術館での一陽展は、一年に一度の美術展ですが、皆さん、作品を吟味されて出品されているので、とても楽しみです。その作品に感動させられます。この度、その一陽会のメンバーになることができ、光栄です。先輩方の作品、お話を糧にこれまでに以上に頑張りたいと思っています。

第61回展 受賞者紹介



損保ジャパン日本興亜美術財団賞

絵画部

古田 恵子

無我とは、知識や経験を得る前の初期設定に還ること、とするなら「山川草木悉皆成仏」生きとし生けるもの万物は皆平等で尊い、という日本古来の心に還ることは、と模索しながら制作しました。

大きな賞をいただき喜びと恐ろしさに震え、入場してすぐの展示位置がまばゆく、目を開けているのがたいへんでした。

一室に入り、先輩方の珠玉の作品が勢ぞろいしたフロアでは、豊かな広がりや奥行きを一つの画面にこんなにも実現できるなんてとあらためて喜びと驚きを覚えました。



野外彫刻賞

彫刻部

深谷 直之

彫刻家にとって、野外に作品を展示するということは、強い決意と覚悟を必要とします。日光や風雨に耐える強度と構造と大きさを考慮しながら、空間に立体表現を成功させなければなりません。今回の受賞は私にとって、野外空間の展示を前提とした作品制作に、真剣に取り組む良い契機となったと強く感じています。



土方明司賞

彫刻部

北沢 努

一陽展は1991年から出品し続け、今年で25年、四半世紀になります。記念すべき25年の節目に評論家土方明司賞をいただきたい大変光栄に存じます。5年前から自然と共存する人間の姿を表現するために「森に棲む」という造語をタイトルに制作しています。今後も精進していきたいと思っています。



会員賞

絵画部

上田 純子

獨創性に満ちた絵を描きたい。それには、日頃の生き方、考え方も自由でなければならない。そうあるべき為に、自由な視点、自由な気持ちで、さまざまな物と接する。しかし日々、これを維持するのは、大変。今回、日常とは、ほど遠い境遇に放り込まれました。さて、どんな作品が出来るのか…。人生はわからないものですね。



会員賞

絵画部

小川 京子

臆病で従順、夕暮れ前に家へ帰り「人ざらい」という言葉に怯える子供でした。反面夜の街を歩きたいという想いが強く、黄昏の川辺、夜更けの公園、見知らぬ国々にいる自分を夢想しました。「明日を拓く人」は夢見た土地で人生の旅立ちを迎える少女を描きましたが、困難な道めげずに進んで欲しいという願いを込めています。



会員賞

絵画部

川邊 嘉章

最近古事記を発想のきっかけとしています。アミノウズメ、イザナミなど、裸の女性をモチーフに。

今回は神武東征ということでジープの男性を描きました。

そしたら会員賞をいただいたのです。嬉しいのですが…、困りましたね。

「裸の女性を描かなかつたから、賞をやったんだぞ」と言われているような気がして。



会員賞

絵画部

永倉 一徳

物は時間と共に風化します、この物を擬人化し制作して来ました。

最初は荒波に耐えるテトラポット、そのあと道端で風雨に耐える土嚢、合わせて約30年モノクロで制作して来ました。その後色彩を使いたくなり、荒波に浮いているブイ(浮き)をオレンジ色系で制作。今回受賞しました作品は、初心に帰りモノクロで制作しました。



会員賞

絵画部

中本 邦夫

冬の間に朽ち果てて無残な姿をさらした枯木も、春になれば再び芽吹いて、またたく間に緑におおわれ、どこにこのような再生のエネルギーが秘められていたのかと驚く。冬日をあびて輝く枯木の姿にたまらなく美を感じるの、秘められた生命の輝きが自ずから外に現れているからであろう。そういう内なる光を描いていきたい。



会員賞

彫刻部

矢野 真

ここ数年、直取り技法をメインとしたモデリングとカービングを融合した独自の彫刻スタイルを、新たな展開にできないかとずっと考えてきた。毎年の個展に発表するだけでなく、デパートなどに出品する機会をいただき、より新たな展開が必要となって来たこともある。そこで辿り着いた結果が「色」である。「塊」や「動き」といった彫刻の要素に加え、「色」を用いることによって、独自の世界観に新たな展開を見つけ出すことに試行を重ねた。今回はその最中の受賞である。「色」を使った彫刻表現が間違いでなかったことが、今回の会員賞につながったと考えている。

今後も、現在の独自の彫刻スタイルをさらに確固たるものとするため、その作品を鑑賞した人に感動を与えていきたい。



岡山県・総社市 泉谷淑夫邸

2015年5月23・24日、心地よい初夏の陽気に誘われるような想いで、初めて備前は岡山の地を訪れた。かねてから約束をしていた盟友、一陽会運営委員の中で最若手の泉谷淑夫さんの率いる、岡山グループの第5回記念展『陽のあたる岡2015』の研修会の講師として招かれたのである。

展示会場の天神山文化プラザのギャラリースペースは広く明るくゆったりとして、節目となるグループ展に相応しく最適であった。

気鋭の二十代・三十代が中心の絵画部は予想に違わず充実し、各自が拮抗した見応えのある壁面となり、加えてヴェテラン・中堅作家二名の彫刻部も存在感ある造形と空間を演出し、頼もしい限りでこよなく喜ばしい。老骨に鞭打つての?新幹線での長旅の疲れも吹き飛ばすようで、爽快感に溢れた展覧会だ。三々五々入館者も引きも切らず、メンバー全員が一丸となって、記念展を盛り上げようとする熱意が、ひしひしと伝わって来るのだった。合評会、懇親会もまた真剣な中にも談論風発、和気藹藹の内に終え、六本木での再会を約しての散会となる。と、まずは表向きのお役目は、無事終了と言う事で一件落着。さて、これから河岸を替えて綺麗どころを待らせて…なんてことには、まるで縁が無いのはいつものことだが…そんなことよりも僕には、もっと大きな楽しみが待っているのである。

今回の岡山行きの目的の半分は、何を隠そう!新築されたばかりの泉谷邸を訪ねることだったのだ。



スカラベ小父さんのアトリエ訪問記

絵画部 運営委員 細川 尚

画家たらんとする者にとって人生の最大の関心事は、何と言ってもアトリエの建築に尽きると、僕は常日頃から信じて止まないからである。

夜もかなり遅い時間の訪問となったけれど、閑静な住宅地の広大な一画に、その威容を一目見た途端、僕はしばし言葉を失った。

さしたる根拠も無いながら、漠然と思いついていた画家のアトリエなるものとの、あまりの落差に一瞬、茫然自失となったのである。

外観を一瞥しただけで、この建築物は唯モノじゃないぞ!の圧倒的な迫力に、誰しも驚かされるだろう。さりながら、それは決して大仰でも無く、厳めしいものでも無い。最先端の現代建築ならではの、クールでモダンで瀟洒な、白とグレーのツートンカラーのサイディングが個性的(泉谷風こだわり)な佇まいを見せて魅了するのだ。

さて、いよいよ画室(アトリエ)へ招き入れられる栄誉に浴する事になる。絵描き仲間として、何が一番興味があるかと問われたら、制作現場を垣間見る…言わばミーハー的覗き趣味だと正直に告白しよう。



支部 & グループ活動報告

東京支部  
TOKYO

2015年支部活動

●第19回一陽会東京展 平成27年4月25日~30日 東京美術館 2階第4展示室

本展も一陽会関東展解体後、東京支部展となり毎年開催され19回展を数える。そして、平成24年度からは会場も東京都美術館での開催となり、平成26年度からは公募団体を謳い一陽会東京展となる。また、この4年間の実績から、平成29年度から33年までの5年間は第7回期1階第3展示室(平成29年度は5月19日~27日)の同一会期、会場での開催が内定した。

●2015年の企画

展示会の企画も18会展から一般来場者向け活動として、ワークショップ、ギャラリートークを催し、19回展も美術館、来場者の評価も上々であった。

○ワークショップ

彫刻部「木のオブジェ磨き」

木材を素材とし、美しい磨きの技法を学習する。

◆木の素材に興味を持った方も多く、参加者数は30



彫刻部ワークショップ

数名にもなった。そして、意欲的に作業を楽しむことで熱気のある会場になり、完成させた方は大切そうに持ち帰って頂けた。

今回提供した木の素材も、さくら、いちよう、けやきなどの枝の輪切りや形の良い枝等のバリエーションも揃った事が成功の一因であった。

○ギャラリートーク

国際的アニメーション作家 木下小夜子氏の講演会 タイトル「アニメーションー生き生きアート」

木下小夜子氏のプロフィール

東京生まれ。女子美術短期大学造形課卒業。虫ブ



岡山県・総社市 泉谷淑夫邸

2015年5月23・24日、心地よい初夏の陽気に誘われるような想いで、初めて備前は岡山の地を訪れた。かねてから約束をしていた盟友、一陽会運営委員の中で最若手の泉谷淑夫さんの率いる、岡山グループの第5回記念展『陽のあたる岡2015』の研修会の講師として招かれたのである。

展示会場の天神山文化プラザのギャラリースペースは広く明るくゆったりとして、節目となるグループ展に相応しく最適であった。

気鋭の二十代・三十代が中心の絵画部は予想に違わず充実し、各自が拮抗した見応えのある壁面となり、加えてヴェテラン・中堅作家二名の彫刻部も存在感ある造形と空間を演出し、頼もしい限りでこよなく喜ばしい。老骨に鞭打つての?…新幹線での長旅の疲れも吹き飛ばすようで、爽快感に溢れた展示会だ。三々五々入館者も引きも切らず、メンバー全員が一丸となって、記念展を盛り上げようとする熱意が、ひしひしと伝わって来るのだった。合評会、懇親会もまた真剣な中にも談論風発、和気藹藹の内に終え、六本木での再会を約しての散会となる。と、まずは表向きのお役目は、無事終了と言う事で一件落着。さて、これから河岸を替えて綺麗どころを待らせて…なんてことには、まるで縁が無いのはいつものことだが…そんなことよりも僕には、もっと大きな楽しみが待っているのである。

今回の岡山行きの目的の半分は、何を隠そう!新築されたばかりの泉谷邸を訪問することだったのだ。

## スカラベ小父さんのアトリエ訪問記

絵画部 運営委員 細川 尚

画家たらんとする者にとって人生の最大の関心事は、何と言ってもアトリエの建築に尽きると、僕は常日頃から信じて止まないからである。

夜もかなり遅い時間の訪問となったけれど、閑静な住宅地の広大な一画に、その威容を一目見た途端、僕はしばし言葉を失った。

さしたる根拠も無いながら、漠然と思いついていた画家のアトリエなるものとの、あまりの落差に一瞬、茫然自失となったのである。

外観を一瞥しただけで、この建築物は唯モノじゃないぞ!の圧倒的な迫力に、誰しも驚かされるだろう。さりながら、それは決して大仰でも無く、厳めしいものでも無い。最先端の現代建築ならではの、クールでモダンで瀟洒な、白とグレーのツートンカラーのサイディングが個性的(泉谷風こだわり)な佇まいを見せて魅了するのだ。

さて、いよいよ画室(アトリエ)へ招じ入れられる栄誉に浴する事になる。絵描き仲間として、何が一番興味があるかと問われたら、制作現場を垣間見る…言わばミーハー的覗き趣味だと正直に告白しよう。



一階のメインアトリエは、およそ30畳ほどか、吹き抜けの天井の高さは5メートル超え、300~500号の大画面も厭わない本格派の工房である。大作志向の一陽会作家として当然過ぎることは言え、改めて高揚感を頂戴した思いである。



そして、何と贅沢なことか、二階にも中・小品制作のサブアトリエが設えてあり、作画に集中、没頭している作家の様子を想像するに難くない。この部屋からは腰窓越しに一階のアトリエが見通せて、大作を相当な距離から眺めることが出来るのも、常に自作を冷静に客観視するのに適している。このサブアトリエが、また実に遊び心に満ちていて、かのヨハネス・フェルメールの、一連の作品にあやかって、室内の床は白と黒の市松模様のタイルが敷き込まれているのだ。フェルメールを敬愛して止まない彼のこだわりに、唯ただ脱帽である。

二階の続き部屋は、学究肌のプロフェッサーに相応しく、文献や専門書、画集や全集が整然と書棚に納まり、文筆家としても一家を為す彼の重厚かつ格調高い書齋となっている。

愛妻家として、つとに知られる泉谷さんのこと、生活空間への肌理の細かい心配りも仇やおろそかではないが、紙幅の都合もありここでは省略しよう。

この度の訪問で、何よりも驚いたことは、二つのアトリエもさることながら、住居と一体化しながらも、本格的レベルの個人美術館(ギャラリーと言うよりミュージアムと称した方が相応しい)を併設していることだった。

流石にこればかりは百戦錬磨?のスカラベ小父さんでさえ予想だにできなかったことである。

130号クラスの作品が20点ほども総て一段懸けで、整然と常陳されているのである。画家・泉谷淑夫のここ数年の画業『一美しい驚き』の羊のシ

リーズが、文字通り美しい驚きを伴って、居ながらにして一堂に通観出来るフロアーなのだ。20年~30年先を見据えて、この地に根を下ろし独自のアートの拠点を創って、関わって行こうとする気構えが伝わってくるようで、思わず胸が熱くなってくるのである。更にこの私設美術館のバックヤードの区劃整備された配慮も、学芸員(キュレーター)顔負けの周到的配慮がなされて感服の他無い。二度三度と間雲に増改築を余儀なくされた、我が身と比べると嘆息することしきりである。このバックヤード(作品収納スペース)と言うものは、とすれば絵描きの見過ごしがちな盲点のようなもので、みんな増え続ける作品の収納に、ほとんど頭を悩ませているのを仄聞する。さあ最後にまたしても、彼のお洒落なライフスタイルの仕上げを、案内披露してもらう事となる。美術館の中二階とおぼしき空間に、愛玩したくなるようなファイン・アートな小品専用のスペース、ちょっと銀座界隈にあるような小粋なギャラリーまでであるのだ。

定期的に一流デパートで開催を催し、多くの熱烈なファンやコレクターにも支持されている彼の、そうした多様性、柔軟性が伺えて、年若の一陽会の同志に教わる事、誠に多く大きなものがあった。

一夜明けて、敬子夫人の温かなお持てなしに心から感謝し、岡山、総社の田園地帯を一望に見下ろす高台、涼やかな樹影の濃い泉谷邸を辞した。その足で宿願であった大原美術館へ。泉谷さんのガイド付きで古今の名作を鑑賞、堪能し、至福のひと時を過ごさせていただいた。

写真=ヘンリー・ムーアの彫刻と細川尚・大原美術館(撮影:泉谷淑夫)

泉谷邸の外観・サブアトリエ・私設美術館(撮影:細川尚)





—時間との対話—  
**西脇義照  
自選作品展**  
2015年  
8月5日～9日  
養老町民会館  
展示ギャラリー




**光の舞 村杉哲子個展**  
2015年5月31日～6月6日  
銀座ギャラリー青羅

**古野恵美子展**  
2015年5月14日～20日  
京阪百貨店守口店 6階京阪美術画廊




**永倉一徳作品展** 2015年7月7日～8月16日  
千葉県文化会館大ホールギャラリー



**第40回記念  
山本安雄展**  
田園・風—  
2016年6月5日～30日

南魚沼市浦佐  
池田記念美術館  
後援/南魚美術協会




**安藤義孝展  
抽象画の世界  
—生命のかたち—**  
2015年  
10月6日～11月29日

高知県香美市  
奥物部美術館



**池田国男洋画個展**  
2015年10月30日～11月3日  
富山県上市町  
『カミール』2Fギャラリー

後援/北日本新聞社  
富山県洋画連盟  
上市町教育委員会  
上市美術会

**芸術の存在意義  
「展」No.20**  
～この時代における  
作品の在り方～  
2015年6月4日～16日  
アートイマジンギャラリー  
東京国立市  
三浦高之



—浮玉・人形・花等を  
モチーフとした  
心象表現—  
**石田孝子 絵画展**  
2015年  
10月30日～11月4日  
福井市 大和屋2Fギャラリー

後援/福井新聞社  
FBC福井放送

**第9回  
アート・エム絵画展**  
2015年3月24日～29日  
八十二文化財団 (長野)  
ギャラリー82

和田ひとみ



**小嶋英子  
作品展**  
2015年  
4月14日～5月24日  
千葉県文化会館  
大ホールギャラリー



**21世紀空間思考展**  
2015年7月22日～8月4日  
日本橋三越本店 アートスクエア  
2015年9月2日～15日  
高島屋大阪店 ギャラリーNEXT

伊藤正人  
風刻 御影石 w60cm




伊藤正人  
平成26年  
紺綬褒章  
—受賞—

埼玉県坂戸市  
入西地域交流  
センターに彫刻「清流」を設置。




内包75 楠 h40cm  
染矢義之

矢野 真  
銀河ステーション02701  
h32 w25 d13cm  
樟/槐/エボキシ/  
アキーラ



**西谷のり子個展** 2015年  
奈良市 ギャラリーまつもり 11月18日～23日



祝福 (部分)

**大川きよ子展 —いのりのひびき—**  
2016年3月8日～13日 銀座ギャラリー アガベ



**西山恭申ガラス絵展** 後援/北國新聞社  
—透明な光を求めて—  
2016年11月2日～30日  
石川県白山市 ギャラリー&カフェ珈蔵



**垣内カツアキ風景展II・作品展**  
9月2日～10月20日 2016年3月10日～16日



伊那アルプス美術館



真輪町文化センター

**藤本元美  
油絵展**  
2015年  
8月11日～16日

コモ湖 (イタリア)

神戸市 原田の森ギャラリー東館1F



甲賀 保 —グループ展みたいな小品展—  
2016年3月19日～30日 藤枝市 ギャラリー未来



**第10回  
アトリエこうたき展**  
2015年6月23日～28日  
千葉市 きぼーる1F  
アトリウム

香焼直美 少女画展  
2015年11月30日～12月5日 銀座 ギャラリー セイコウドウ




公募団体ベストセレクション2015

東京都美術館 5月4日~27日



アーティストトークで絵画部作家作品を解説する泉谷淑夫運営委員、彫刻 小林達也運営委員も自作を語る。写真提供：山田久子会員



佐野儀雄



泉谷淑夫



藤田裕子



棚瀬修次



小林達也



彌彦神社 御遷座百年記念 鈴木力 版画の世界展

2015年7月24日~8月30日 新潟県弥彦村 弥彦の丘美術館



第33回 石井悦夫個展

2015年7月20日~26日 銀座 スパンアートギャラリー

北嶋三智子水彩画展 四季のいろどり

2015年7月15日~20日 石川県政記念 いのき迎賓館ギャラリーA・B 後援/北國新聞社、福井新聞社



美しい驚き 泉谷淑夫展

~月と羊のファンタジー~

2015年8月20日~30日 ギャラリー倉敷



塩川慧子展

2015年4月13日~18日 銀座 みゆき画廊

「物語」尾島 守展

2015年7月28日~8月2日 銀座 ギャラリー杉野



~ゴリラを描き続けて30年~ 阿部知暁 絵画展

2015年3月18日~23日 西武春日部店 7階ギャラリー

2015年3月16日~22日 高知大丸 本館5階 美術画廊



棚瀬修次



néo<視点-12の個>展

2015年10月19日 銀座 ギャラリー暁

茨城一陽会 絵画部展 -6pieces-

2015年3月30日~4月4日 銀座 井上画廊

雨谷達夫



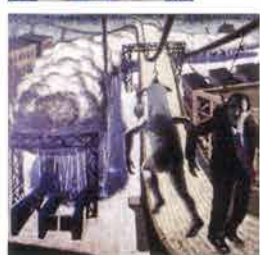
宇留野信章



阿部 進



小川京子



舘野 弘



樋口三千代

三阪雅彦展

2015年5月12日~17日 アトリエ グランテラス芦屋



佐川文子油彩展 一少し早まった遺作展一

2015年4月1日~5日 福井県立美術館 後援/福井新聞社 FBC福井放送 福井テレビ



佐川文子油彩展 一少し早まった遺作展 PartII一

2015年8月26日~30日 福井市 工場ギャラリー

高岡 徹個展

2015年12月7日~12日 銀座 光画廊



岡村順一展

2015年11月12日~15日 千葉 画廊ジュライ



金谷美術館コンクール2015

2015年12月19日~2016年3月21日



銅賞 岩田明美 大賞 立花大聖

第1回菱川賞展

2015年8月1日~15日 鋸南美術館 富津市 審査員賞 河野緋紗子



秀島有子個展

2016年3月23日~28日 麻布十番 ギャラリーモナ

日本ガラス絵 協会展

2015年7月13日~15日 銀座 ギャラリー一枚の楡



石川三知代

川口文子



古賀敦子

高岡 徹



一少女のいる情景一 細川 尚 素描&油彩展

2015年5月30日~6月6日 木更津わたくし美術館



会場風景 (ギャラリートーク)



- ギャラリー一眺 (銀座) 棚瀬修次  
 企画 林 紀一郎
- 第10回 新池袋モンパルナス 西口まちかど回遊美術館 ギャラリーコレクション展 (企画展) 5月14日～27日  
 大石村ガレージ画廊 (池袋) 武田守弘
  - 第49回 足立区展 6月23日～28日  
 シアター1010: ギャラリー (足立区) 千住ミルデイス1番館11階 棚瀬修次
  - 綺羅星展 7月6日～11日  
 千駄木画廊 (文京区) 石井悦夫、棚瀬修次
  - 天空の詩 7月6日～11日  
 STAGE-1 (銀座) 棚瀬修次
  - 絵夢コネクション2015 7月10日～19日  
 ギャラリー絵夢 (新宿) 棚瀬修次
  - 日本ガラス絵協会展2015 7月13日～25日  
 gallery一枚の絵 (銀座) 高岡 徹
  - 田村晴海展 からす天空十六羅漢とその守り神展 9月7日～12日 井上画廊 (銀座) 棚瀬修次
  - 遊・桜ヶ丘 現在進行形屋外展2015 10月5日～11月23日  
 原峰公園 (多摩市) 武田守弘
  - 〈視点-12の個〉展 10月19日～25日  
 ギャラリー一眺 (銀座) 企画 中野 中 棚瀬修次
  - CAF・N 2015CAFネビュラ展 11月11日～22日  
 埼玉県立近代美術館 (埼玉県) 小松富士子
  - 第20回Eg銅版画工房展  
 ギャラリーくぼは6階 (京橋) 坂口かほる
  - ～立体造形の展覧会～ 12月7日～25日  
 市民協働事業「あつぎ素敵美術館」  
 あつぎアートギャラリー (厚木市) 小林達也・武田守弘
  - 日本ガラス絵協会展2016 1月4日～9日  
 井上画廊 (銀座) 高岡 徹
  - 第24回新春現代作家小品展 1月16日～23日  
 千駄木画廊 (文京区) 石井悦夫・棚瀬修次
  - PREMIER STAGE展 (9th) 1月18日～29日 STAGE-1 (銀座) 棚瀬修次
  - 2016ART WAVE 1月25日～30日  
 銀座6丁目商店街展 A'sアーティスト スペース・  
 ギャラリー一眺 (銀座) 棚瀬修次
  - 現代抽象作家展-surprise9- 棚瀬修次  
 2月5日～17日 ギャラリー絵夢 (新宿)
  - ◎公募団体ベストセレクション 美術2015 5月4日 (月・祝)～5月27日  
 東京都美術館 (上野) 棚瀬修次・藤田裕子・小林達也 (棚瀬修次・小林達也 記)

関西支部

KANSAI

(主に2015年2月～2016年1月)

■展覧会

- 第53回関西一陽展 2015年3月11日～16日  
 大阪市立美術館
  - \*関西支部独自の公募展として、今年度も新たな出品者の広がりも見せた。支部会員、出品者にとって、新作の大作を出品することで、この関西一陽展が一年間の制作活動及び秋の一陽展に向けたスタートとして位置づけられていると言える。
  - \*入選者は昨年より9名増。入場者も3000人を越え、盛況だった。
  - \*昨年に引き続き水彩画の部門を設置。(20号以上の作品)多数の応募の中で受賞した作品もあった。
  - \*特別展示として古曾成樹会員が新作の大作を10点発表。一陽会のエネルギーを感じさせてくれた。
  - \*初めての取組として、初日にシンポジウム「制作討論会」を開催。水谷委員、大東・川邊会員がパネラーとしてそれぞれの立場から制作に関わる思いや技法などを紹介。質問や意見なども数多く出され、とても有意義な内容になった。参加者約80名で、次回も実施予定。
  - \*初日の合評会(ギャラリートーク)を実施し出品者が多数参加。支部会員による一人ひとりへののびやかな講評は励みになった。
  - \*初日夕刻より、授賞式と懇親会を開催。受賞者、初入選者からの抱負も聞かれ、活気のあるひとときだった。
- 〈出品状況〉
- |      |              |
|------|--------------|
| 支部会員 | 絵画 79点 (47人) |
|      | 彫刻 6点 (4人)   |
| 入選   | 絵画 82点 (47人) |
|      | 彫刻 3点 (3人)   |
| 入場者  | 3302人        |
- 〈第53回関西一陽展受賞者〉
- |           |  |
|-----------|--|
| 関西一陽賞     | 高橋章子(絵)  |
| 大阪市長賞     | 横山瑞歩(絵)  |
| 大阪府教育委員長賞 | 中川香代(絵)  |
| ホルベイン賞    | 濱上寛司(絵)  |
| 奨励賞       | 岡田正善 木寅 勉 後藤 杏<br>谷口紳一 檀野計蔵 橋本康子<br>藤田安臣 水谷浩三 三好利治<br>(以上、絵) |
| 会友賞       | 福井建彦(絵) 前川芳輝(彫)  |

- 2015一陽会関西作家展 7月23日～26日  
 兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー
  - \*絵画20号～50号及び彫刻小品の展示で、出品者も増え、充実した内容となった。(一人1点出品)
- 【絵画出品41名】
- 安孫子百合 榎本紀代文 大西正雄 大東明宏  
 奥谷卓則 奥村佳弘 尾島 守 川邊嘉章  
 楠森道剛 古曾成樹 小松正司 坂本真左子

- 佐野儀雄 墨川廣徳 隅田博美 宗 保江  
 高孝壬津子 田坂奈美子 たつみゆうこ  
 田潤幹夫 辻本光彦 豊岡知世枝 中田絵里  
 永田啓子 新村則一 西浦まゆみ 西尾昭子  
 西谷のり子 西山真理子 橋本紀夫 福井建彦  
 福島涼子 福家省造 藤本元美 古野恵美子  
 松村一夫 三阪雅彦 水谷喜美子 宮口 観  
 三村恵理 山下潤志

【彫刻出品3名】

- 鍛田和見 津野充聡 前川芳輝
- 第61回一陽展(大阪展) 10月20日～25日  
 大阪市立美術館 地下展覧会室
  - \*絵画・版画121点 彫刻10点の展示
  - \*巡回作品 絵画46点 彫刻5点
  - \*関西支部会員(委員・会員・会友)作品 絵画・版画54点(53人) 彫刻4点(4人)
  - \*関西の入選 絵画21点(18人) 彫刻1点(1人)
  - \*入場者 2772人
  - \*巡回作品も含め大作に応じた展示を行い、活気ある展覧会になった。
  - \*初日の15:00より細川運営委員、濱田運営委員のギャラリートークを実施。大勢の参加の中で丁寧な講評をいただいた。両運営委員は、その後の懇親会にも出席。参加者と和やかに歓談された。



〈第61回一陽展受賞者(関西支部関係)〉

- |        |  |
|--------|--|
| 鈴木信太郎賞 | 古野恵美子(絵)                                       |
| 高岡徳太郎賞 | 松村一夫(絵)  |
| 会員賞    | 上田純子 川邊嘉章(絵) 矢野 真(彫)                           |
| 青麦賞    | 横山瑞歩(絵)  |
| 特待賞    | 高橋章子 檀野計蔵(絵)                                   |
| 奨励賞    | 水谷浩三(絵)  |
| 会友賞    | 坂本真左子(絵)                                       |
| 会友推挙   | 高橋章子 檀野計蔵 永田牧子<br>平田せつ子 藤田安臣 (以上、絵)<br>橋本雅美(彫) |

- 第54回関西一陽展 2016年3月8日～13日  
 大阪市立美術館
- 2015年度の支部行事
- 事務局会議
- \*支部会議および展覧会の前に随時開催
- ・1月12日・3月8日(関西展陳列担当者)・5月2日  
 ・9月26日・10月17日(一陽展陳列担当者)・11月14日
- 支部会議

- ・1月18日 年度当初総会(年間計画、予算、第53回関西一陽展準備など)・新年会
- ・5月10日 第61回一陽展に向けて発送作業・諸準備、関西一陽展反省など
- ・9月13日 一陽展出品作品の把握(下見)
- ・10月4日 一陽展(大阪展)諸準備、発送事務
- ・12月6日 決算総会(第54回関西一陽展発送事務)
- ・2016年1月24日 年度当初総会・新年会
- 研修会  
 (一陽展に向けての作品講評会)  
 8月9日 エル・おおさか
- \*一般出品者、会友の作品13名の講評を行い、出品に向けての意欲が高まり、会友推挙や受賞、入選を果たすなどの結果を残すことができました。
- 個展
- 美しい驚き・泉谷淑夫展 2月27日～3月30日  
 八千代の丘美術館(広島県安芸市)
- 美しい驚き・泉谷淑夫展～月と羊のファンタジー～ 8月20日～30日 ギャラリー倉敷
- 三阪雅彦展(油彩・水彩) 5月12日～17日  
 アトリエ グランテラス芦屋
- 古野恵美子展 5月14日～20日  
 京阪百貨店守口店6階 京阪美術館
- 「物語」尾島 守展 7月28日～8月3日  
 ギャラリー杉野(銀座)
- 藤本元美油絵展 8月11日～16日  
 原田の森ギャラリー(神戸市)
- 西谷のり子個展 11月18日～23日  
 ギャラリーまつり(奈良市)
- 2015年度のコンクール入賞・入選など
- 第20回アートムーブコンクール  
 (大阪・江之子島文化芸術創造センター・7月)  
 平田せつ子(シニア部門・賞)
- 第61回全関西美術展(大阪市立美術館・7月)  
 佐野儀雄(招待) 山下潤志(招待) 上田純子  
 奥村佳弘 福家省造
- 2015京展(京都市美術館・6月)  
 矢野 真(市長賞) 福家省造
- アートオリンピック2015  
 (としまエコミューゼタウン・6月) 奥村佳弘
- 第10回丹波美術大賞展  
 (丹波市立上の記念美術館・11月) 溝下美代子
- 美術館企画展など
- 公募団体ベストセレクション美術2015  
 5月4日～27日 東京都美術館 佐野儀雄
- 第23回川西市展  
 2月 川西市中央公民館・文化会館  
 (審査員)尾島 守・藤本元美
- 第30回日本の海洋画展  
 (全日本海員福祉センター主催) 8月～  
 東京芸術劇場ほか 古曾成樹
- 第59回守口市美術展覧会 9月  
 (審査員)水谷喜美子
- 兵庫県立丸山公園美術館所蔵作品展  
 12～1月 佐伯武彦

- 支部会員・関西出品者の各種展覧会での作品発表  
(企画展、グループ展など)
- 天忠塾展 3月26日～31日  
茶屋町画廊(大阪市) 新村則一 山下潤志
- 第10回記念アートフォーラム宇治美術展  
4月2日～5日 宇治市文化センター 福家省造
- SALON DE KATO「カト展」  
5月19日～24日 ギャラリーカト  
奥谷卓則 福家省造
- 由良町文化協会ゴールデンウィーク展  
5月2日～10日 古曾成樹
- 35周年記念蟻の会展 5月15日～18日  
有田市文化福祉センター 古曾成樹
- 2015兵庫彫刻家連盟展  
原田の森ギャラリー(兵庫市)  
津野充聡 前川芳輝 橋本雅美 寺元恵理子
- 立体造形展  
7月22日～26日 原田の森ギャラリー  
鎌田和見 津野充聡 前川芳輝 橋本雅美  
寺元恵理子
- 兵庫県美術作家協会展 7月29日～8月2日  
原田の森ギャラリー  
大東明宏 津野充聡 中田絵里 藤本元美  
西岡 伸
- 第4回恵風会展 9月26日～30日  
守口文化センター  
山下潤志 田坂奈美子 上野和子 鎌田良子  
玉置義弘 田村初江 中西敦子 山本尚子
- 第31回ハクの会作家展 11月24日～29日  
京都府立文化芸術会館  
奥谷卓則 奥村佳弘 福家省造 古川晶弘
- The 13th Salon DO Painting exhibition  
11月20日～25日 守口文化センター  
安孫子百合 高孝壬津子 田淵幹夫 檀野計藏  
西山真理子 水谷喜美子 水谷浩三 森本正義
- 25人の絵画展 11月17日～22日
- 第24回折々の作家たち展  
2016年1月11日～24日  
以上 ギャラリーヒルゲート(京都市)  
古野恵美子
- 大阪市立美術館美術研究所展 1月20日～25日
- ルート・テン展  
6月16日～21日 茶白山画廊(大阪)
- 人物一日レッスン展 8月15日～31日  
ナンバ生涯学習センター
- 道展 9月22日～27日 茶白山画廊(大阪)
- らかれこ展 11月23日～27日  
茶白山画廊(大阪) 平田せつ子
- 第6回F展 11月30日～12月5日  
マサゴ画廊(大阪) 松村一夫
- 2016年度関西支部の主な予定
- 2016一陽会関西作家展 6月10日～15日  
ギャラリーサンバル(神戸市)
- 研修会 一陽展出品作品の下見会  
8月21日13:00～ エル・おおさか

- 第62回一陽展(大阪展) 10月18日～23日  
大阪市立美術館
- 第55回関西一陽展 2017年3月7日～12日  
大阪市立美術館
- 2016年度関西支部事務局
- 事務所 福家省造
- 会計部 (支部会計) 藤本元美  
(関西展会計) 川邊嘉章  
(大阪展会計) 山下潤志
- 事業部 安孫子百合 上田純子 大東明宏  
(会計監査…大西正雄 西谷のり子)  
(相談役…運営委員・委員)



(福家省造・記)

## 福井一陽会 FUKUI

- 2015年度活動報告  
(2015年1月～2016年3月予定)
- 福井一陽会新年会 1月24日 おお田
- 福井一陽会役員会 1月24日 おお田  
7月4日 福井市体育館  
2016年1月11日 福井市体育館
- 福井一陽会総会 4月11日 ロッシェ
- 作品研究会Ⅰ 6月13日  
福井県立美術館 研修棟
- 作品研究会Ⅱ 7月11日  
福井県立美術館 研修棟
- 合評会・懇親会 8月1日・2日  
ユーアイふくい・バードグリーンホテル



- 第52回福井一陽展 2016年3月17日～21日  
福井県立美術館
- 個展等
- 佐川文字油彩展Ⅰ 4月1日～5日  
福井県立美術館 佐川文字
- 佐川文字油彩展Ⅱ 8月20日～30日  
工場ギャラリー 佐川文字
- 北嶋三智子水彩画展 四季のいろどり  
7月15日～20日  
石川県しいのき迎賓館 北嶋三智子
- 石田孝子絵画展 10月30日～11月4日  
ギャラリー大和屋 石田孝子
- 県文協文化芸術賞 2016年1月13日  
福井県国際交流会館 清水正男
- 公募展
- 第28回市美展ふくい 5月15日～24日  
福井市美術館  
絵画造形部門  
審査員・審査員出品 佐川文字、清水正男  
無鑑査出品 内藤 汎、畑 秀仁、西藤節子  
市長賞 孫崎公子  
市議会賞 渡辺妙子  
市文化協会会長賞 坂井和子  
福井新聞社賞 坪田美代子  
日刊県民福井賞 白崎榮子  
奨励賞 石田孝子、郡谷美穂子、櫻川幸代  
松井優子、松原照代
- 一般入選 茨山美美子、加藤富子、村田宏子  
竹内光一、中西美恵子、宮越麗子  
横山純子、渡辺妙子
- 日本画部門 市長賞 島田くみ子
- 第32回福井サムホール展 7月16日～26日  
福井放送会館カルチャーセンター  
絵画造形部門 伊ザワ賞 郡谷美穂子  
入選 白崎榮子、坪田美代子、武鑑恭子  
渡辺妙子
- 第61回一陽展 9月30日～10月12日  
国立新美術館 出品者44名  
スカラベ賞 岩永勝彦  
会員推挙 児玉常聖、内藤 汎、真木康至  
村上禮子  
会友賞 白崎榮子  
会友推挙 加藤富子、郡谷美穂子、坂井和子  
島田くみ子、坪田美代子、西藤節子  
松井優子、丸山和子、森山秀樹  
横山純子
- 特待賞 西藤節子、武鑑恭子  
(版画部門) 松本潤子  
奨励賞 大森英節、阪口美幸、竹内光一  
中西美恵子、渡辺妙子
- 入選 25名
- 第66回福井県総合美術展 11月19日～29日  
福井県立美術館  
絵画造形部門 審査員・審査員出品 佐川文字  
清水正男、内藤 汎

- 県美展賞 宮川正市(会員推挙)
- 県立美術館館長賞 牧田聖代
- 県美展審査員特別賞 武鑑恭子
- NHK福井放送局賞 西藤節子
- 福井エフエム放送賞 孫崎公子
- 一般入選 石田孝子、茨山美美子、大森英節  
加藤富子、郡谷美穂子、坂井和子  
阪口美幸、櫻川幸代、白崎榮子  
竹内光一、谷口恵子、坪田美代子  
中島恒子、増澤恵美子、松井優子  
松原照代、丸山和子、宮川成美  
宮越麗子、村上禮子、村田宏子  
横山純子、渡辺妙子
- 日本画部門 知事賞 島田くみ子
- 第65回福井県勤労者美術展 12月3日～6日  
福井県立美術館  
絵画造形部門 福井県民生活協同組合理事長賞  
松井優子  
入選 坪田美代子  
版画部門 福井県労働者福祉基金協会理事長賞  
松本潤子
- 現代童画会福井地区展 6月7日～14日  
まなべの館(鯖江市) 無鑑査 辻トシ子
- 第1回菱川賞展 8月1日～14日  
錦南美術館(千葉) 優秀賞 辻トシ子
- 第41回現代童画展 11月8日～15日  
東京都美術館 入選 辻トシ子
- 第8回鯖江市美術展 11月27日～12月1日  
鸕鷀会館(鯖江市)  
審査員出品 佐川文字 宮川正市  
市長賞 中島恒子
- グループ展他
- 第8回スプリングアート展  
1月28日～2月1日 福井県立美術館  
佐川文字、加藤富子、坂井和子、阪口美幸  
櫻川幸代、白崎榮子、谷口恵子、坪田美代子  
中西美恵子、西藤節子、松井優子、宮越麗子  
村上禮子、渡辺妙子
- 第6回老いるほど若くなる展  
2月17日～3月29日 松本市美術館(松本市)  
ロータリー賞 宮川正市
- 第50回福井造形展 3月26日～29日  
福井県立美術館  
清水正男、竹内光一、孫崎公子、横山純子
- 究展 4月1日～5日 福井県立美術館  
佐川文字
- 第12回グループ彩展(水彩画)  
4月9日～12日 福井県立美術館  
佐川文字、松井優子
- 坂井市美術展 6月2日～7日 ハートピア春江  
松井優子
- 第55回べんべん会展 7月22日～26日  
まなべの館(鯖江市)  
佐川文字、石田孝子、松原照代、横山純子
- pino&森の仲間たち水彩画展 7月22日～26日

- まなべの館(鯖江市) 松原照代
- フランススケッチ4人展 8月1日～29日  
がくぶち屋ひろた画廊 松原照代
- 第11回世界絵画大賞展 8月12日～26日  
東京都美術館 入選 宮川正市
- 第40回鯖江美術協会展 9月11日～13日  
嚮陽会館(鯖江市) 宮川正市、中島恒子
- 第7回吉川絵画クラブ展 9月25日～27日  
まなべの館(鯖江市) 宮川正市、中島恒子
- 第35回文協選抜展 9月26日～28日  
越前町学習センター(越前町) 宮川正市、中島恒子
- 玲風会サムホール小さな世界展  
10月21日～28日 まなべの館(鯖江市) 辻トシ子
- I.H.I OB展 10月22日～11月18日  
横浜・東京 森山秀樹
- 第14回北国街道アート展 10月30日～11月8日  
鯖江市商店街 宮川正市、中島恒子
- 華陽会9人展 11月1日～27日  
福井銀行武生支店(越前市)  
村上禮子、白崎榮子、坪田美代子、松井優子  
阪口美幸、櫻川幸代、中西美恵子、横山純子  
渡辺妙子
- 日本美術家連盟展 11月7日～12日  
福井市美術館 佐川文字、清水正男
- 第56回鯖江市文協展 11月13日～15日  
嚮陽会館(鯖江市) 宮川正市、中島恒子
- 第11回アトリエ羊庵展 2016年1月8日～11日  
福井県立美術館  
北嶋三智子、大森英節、児玉常聖、島田くみ子  
平井仁美、土田清香、廣瀬富美子、増澤恵美子  
丸山和子、三谷滋子、宮川成美、森山秀樹
- 第9回笑夢の会展 2016年1月22日～24日  
福井県立美術館  
大森英節、児玉常聖、島田くみ子、辻トシ子  
平井仁美、増澤恵美子、丸山和子、三谷滋子  
宮川成美
- 第9回スプリングアート展  
2016年2月24日～28日 福井県立美術館  
佐川文字、石田孝子、郡谷美穂子、坂井和子  
阪口美幸、櫻川幸代、白崎榮子、谷口恵子  
坪田美代子、中西美恵子、西藤節子、松井優子  
宮越麗子、村上禮子、横山純子、渡辺妙子
- 第52回福井一陽展  
2016年3月17日～21日 福井県立美術館  
石田孝子、茨山美美子、岩永勝彦、大森英節  
加藤富子、北嶋三智子、郡谷美穂子、児玉常聖  
坂井和子、阪口美幸、佐川文字、櫻川幸代  
島田くみ子、清水正男、白崎榮子、竹内光一  
谷口恵子、辻トシ子、土田清香、坪田美代子  
内藤 汎、中島恒子、中西美恵子、西藤節子  
畑 透仁、平井仁美、廣瀬富美子、武鑑恭子  
真木康至、牧田聖代、孫崎公子、増澤恵美子  
松井優子、松原照代、松本潤子、丸山和子

- 三谷滋子、宮川正市、宮川成美、宮越麗子  
村上禮子、村田宏人、森山秀樹、横山純子  
渡辺妙子
- 玲風会展 2016年3月23日～27日  
福井県立美術館 辻トシ子  
(真木康至・記)

石川支部  
ISHIKAWA

●活動報告

- 総会 4月12日 金沢都ホテル
- 作品研究会 6月14日 インプレス
- 2015一陽会石川支部展 7月8日～13日  
石川県立美術館  
本部より細川尚運営委員・濱田清運営委員を招聘し、作品講評会・懇親会を開催。
- 本展反省会 11月1日 野々市市交流館
- 2016一陽会石川支部新春会 1月26日～31日  
金沢21世紀美術館
- 個展
- 柴山桂子個展 6月20日～28日  
ガレリア・ボンテ
- 西山恭申ガラス絵展 11月26日～12月1日  
ギャラリー&カフェ珈蔵
- 公募展
- 第71回現代美術展 3月28日～4月14日  
金沢21世紀美術館(洋画)  
副理事長出品 大場吉美  
委員・審査員出品 安田 淳  
委員出品 野中未知子  
会員出品 金田千佳、柴山桂子、白井正浩  
竹田明男、中野久賀子、中本邦夫  
西山恭申、益田恭行  
北國賞 飯田恭彦、尾山隆夫、城戸清子  
後出秀茂、巻 砂紀恵  
佳作賞 阿部正子、川村甚子、南ヒサコ  
吉野美策子  
入選 小西明人、山崎綾乃、小島信子  
小松繁行、中谷美和子、松井三枝子  
岩城和恵
- 第71回現代美術展 3月28日～4月14日  
石川県立美術館(彫刻)  
会員出品 大嶽英治
- 第19回日仏現代国際美術展 4月  
東京都美術館  
常任委員出品 安田 淳
- 第1回菱川賞展 8月1日～14日 鋸南美術館  
審査員賞 金田千佳  
佳作賞 白井正浩、城戸清子  
奨励賞 松井三枝子
- 第4回野々市市美術展 8月28日～9月6日  
野々市市情報交流館カメラ  
理事・審査員出品 竹田明男  
理事出品 西山恭申、尾山隆夫

- 日仏現代国際美術2015選抜展 9月  
大森ベルポート  
常任委員出品 安田 淳
- 第61回七尾市美術展覧会 10月31日～11月3日  
石川県立七尾美術館  
副審査委員長出品 野中未知子  
招待出品 巻 砂紀恵
- 第56回日本版画会展 11月18日～24日  
準会員賞・会員推荐 石川ナオミ
- グループ展
- 第4回おおたピエンナーレ2015 3月  
大田学習文化センター(群馬) 安田 淳
- 石川県美術文化協会秀作展 3月14日～22日  
北國新聞社赤羽ホール 大場吉美
- 花と緑の ののいち椿まつり 3月21日～22日  
野々市市文化会館フォルテ 竹田明男、尾山隆夫
- 版画女子展 3月24日～29日 広島県立美術館  
石川ナオミ
- 彫刻と素材～伝えたいかたち 4月2日～11日  
ギャラリーZaroff(東京) 浜谷信彦
- 第55回小松美術展 4月  
サイエンスヒルズこまつ 益田恭行、安田 淳
- イタリラスケッチ帰国展 5月11日～19日  
ひろた画廊 後出秀茂
- グループ標絵画展 5月13日～24日  
津幡町文化会館シグナス 川村甚子、岩城和恵
- 能美市絵画協会辰口展 5月30日～6月7日  
能美市博物館 後出秀茂
- 根上書道・絵画合同展 6月6日～14日  
根上学習センター 阿部正子、山崎綾乃
- 第11回白山会南加賀造形美術展  
6月10日～14日 加賀市美術館  
小西明人、益田恭行、安田 淳、山崎綾乃  
田方 勇
- 能美市作家協会N展 6月12日～21日  
辰口町博物館  
阿部正子、和泉 洸、小西明人、山崎綾乃  
後出秀茂、田方 勇
- 能美市絵画協会展 6月19日～28日  
根上学習センター  
阿部正子、和泉 洸、小西明人、山崎綾乃  
田方 勇
- 古九谷修古祭現代陶芸展 6月20日～21日  
芭蕉の館 浜谷信彦
- 版画フォーラム 6月20日～27日  
東秩父和紙の里(埼玉) 石川ナオミ
- 日米美術交流展Works on Paper 2015  
6月20日～7月12日 湯涌創作の森 石川ナオミ
- 初夏を彩る養生会展 7月2日～13日  
寺井地区公民館 和泉 洸、小西明人
- 第25回津幡美術友好会展 7月14日～20日  
津幡町文化会館シグナス  
飯田恭彦、川村甚子、岩城和恵
- 七尾美術作家協会展 7月17日～20日  
石川県七尾美術館 野中未知子

- 能美市美術作家協会展 7月18日～26日  
根上学習センター  
阿部正子、和泉 洸、小西明人、山崎綾乃  
後出秀茂、田方 勇
- 第1回コンテンポラリーズ展 8月  
ぎゅらりーソレイユ 安田 淳
- 白寿母の会絵手紙展 8月19日～28日  
根上文化会館アートギャラリー 山崎綾乃
- アートハウスおやべ会館記念展 9月  
アートハウスおやべ(富山) 安田 淳
- 根上絵画クラブ作品展 9月2日～9日  
タントアートギャラリー 阿部正子、和泉 洸
- 北國文化センターカルチャー祭  
9月11日～13日 赤羽ホール 石川ナオミ
- 三桜美術展 9月22日～27日 金沢21世紀美術館  
大場吉美、中本邦夫、城戸清子
- 創立30周年記念石川県立金沢辰巳丘高校辰美会  
展 9月28日～10月4日 金沢21世紀美術館  
大嶽英治、白井正浩、安田 淳
- 航空祭2015 10月10日～11日 日本航空学園  
吉野美策子
- 第4回ホスピタルギャラリー 10月10日～12日  
金沢市立病院 金田千佳、城戸清子
- 地区文化祭展 10月17日～18日  
井上コミュニティプラザ 川村甚子
- 白山市美川美術展 10月17日～24日  
美川文化会館 南ヒサコ
- 此花文化祭 10月24日～25日 此花町公民館  
小島信子
- インスタレーション4人展 10月20日～11月1日  
石川国際交流サロン 大場吉美
- 第4回野々市市美術文化協会展  
10月26日～11月1日 野々市市情報交流館カメラ  
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫
- 能美市文化祭 10月31日～11月3日  
根上文化会館タント  
阿部正子、和泉 洸、小西明人、田方 勇
- 2015CAFネビュラ展 11月  
埼玉県立近代美術館 安田 淳
- 第5回日本美術家連盟北陸地区会員展 11月  
福井市美術館 安田 淳
- 第58回津幡町文化展覧会 11月1日～3日  
津幡町文化会館シグナス  
飯田恭彦、川村甚子、岩城和恵
- 白山市美川文化祭 11月1日～3日 美川図書館  
南ヒサコ
- 第11回記念津幡美術作家協会展  
11月11日～15日 津幡町文化会館シグナス  
飯田恭彦、川村甚子
- 第8回赤とんぼ展 11月12日～15日  
ラポルトすず 吉野美策子
- 第2回かゆう堂文化教室合同展 11月20日～24日  
金沢市民芸術村 金田千佳、白井正浩、城戸清子
- 第55回歳末美術展 11月26日～12月1日  
香林坊大和

- 大場吉美、阿部正子、飯田恭彦、金田千佳  
柴山桂子、白井正浩、竹田明男、中野久賀子  
西山恭申、安田 淳、山崎綾乃、尾山隆夫  
城戸清子、南ヒサコ
- 能美市作家協会N展 11月26日～12月6日  
能美市学習センター  
和泉 洸、小西明人、山崎綾乃、後出秀茂  
田方 勇
  - ざぶん展 11月27日～29日 玉川図書館  
柴山桂子
  - 能美市歳末助け合い入札展 12月4日～6日  
寺井地区公民館 阿部正子、小西明人
  - 第21回七尾美術作家協会歳末チャリティー展  
12月11日～13日 フォーラム七尾 野中未知子
  - 叢生会新春を祝う展 1月6日～17日  
寺井地区公民館 和泉 洸、小西明人
  - 第2回コンテンポラリーズ展「起動」2月  
ざらりーソレイユ 安田 淳
  - 根上絵画クラブ新春展 2月11日～20日  
アートギャラリータント  
阿部正子、和泉 洸、田方 勇
  - その他
  - JFPA「機関誌」作品掲載 1月号 吉野美策子  
(白井正浩・記)

富山一陽会  
TOYAMA

- 2015年1月  
山本文郎展  
砺波総合病院オアシスギャラリー
- 2015年2月
- 富山市美術作家連合展  
富山市民プラザアトリウム  
萩中幸雄、榊田律子、古田恵子、荒井哲夫  
姫路廣司、菊 昌隆、藤木良一、富岡博子
- 生涯学習フェスティバル 婦中ふれあい館  
荒井哲夫
- 3月
- 砺波市美術協会会員展 砺波市美術館 山本文郎
- 富山・飛騨交流美術展 飛騨美術館 萩中幸雄
- 4月
- 富山県洋画連盟展 富山県民会館美術館  
萩中幸雄、山本文郎、笹山満義、榊田律子  
永澤一美、古田恵子、丸山敦子、池田国男
- 洋画2015年in庄川展 庄川美術館  
萩中幸雄・山本文郎
- 新萩の会作品展 富山市民プラザ  
萩中幸雄・菊 昌隆・田村昭子・山田明子
- 銀彩の会展 北陸銀行小杉支店 竹内隆男
- テンペラフレンズ展 富山県民会館 川原憲行
- 5月
- 2015富山国際現代美術展  
高岡美術館・市民ギャラリー 古田恵子
- フランドル会展 富山県民会館

- 武田清子、川原憲行
- 滑川市美術連合展 滑川市立博物館 笹山満義
  - 版画in庄川展 庄川美術館 永澤一美
  - 6月
  - 第70回富山県美術展 富山県民会館美術館  
会員出品 萩中幸雄  
入選 榊田律子、永澤一美、古田恵子、荒井哲夫  
姫路廣司、武田清子、池田国男、高橋久仁子  
藤木良一、梶原信男、寺脇圭子、富岡博子
  - 東秩父版画フォーラム 東秩父村和紙の里  
永澤一美
  - なないろ流星展 北日本新聞社ギャラリー
  - となみ野美術館 砺波市美術館 山本文郎
  - 富山市工芸美術作家協会展 富山市民プラザ  
富岡博子
  - 7月
  - 第61回一陽展事前研修会 富山県民会館美術館  
大作 24名出品 講評 小島鐵男先生
  - 富山県洋画連盟新川地区会員展  
上市町まちなか交流プラザ(カミール)  
笹山満義・池田国男
  - 滑川市洋画連盟展 滑川市立美術館 笹山満義
  - 七夕会作品展 アートギャラリー栄  
菊 昌隆  
池田国男
  - 上市美術会会員展 西田美術館 池田国男
  - 富山市洋画作家連盟展(小品展)  
アートギャラリー栄  
萩中幸雄、榊田律子、古田恵子、武田清子  
上田滋子
  - 8月
  - 野萩の会展 市民プラザ  
萩中幸雄、菊 昌隆、竹森由紀子、藤木良一  
寺脇圭子、富岡博子、田村昭子、黒崎 博  
高島達雄、上田滋子
  - 上市町美術展 北アルプス文化センター  
審査員出品 萩中幸雄  
招待 池田国男  
町展賞 黒崎 博
  - 9月
  - 第53回氷見市美術展 ふれあいスポーツセンター  
招待 永澤一美
  - 内なる風景画in八尾  
萩中幸雄、榊田律子、古田恵子、武田清子
  - 小杉采芳会小品美術展 小杉展示館  
梶原信男、竹中隆男
  - 10月
  - 第61回一陽展 国立新美術館  
24名出品  
損保ジャパン興亜美術賞 古田恵子  
会員推挙 荒井哲夫、丸山敦子  
会友賞 荒井哲夫  
会友推挙 菊 昌隆、高橋久仁子、竹森由紀子  
入選 11名
  - 神通峡美術展トリエンナーレ2015

- 大沢野文化会館 古田恵子、荒井哲夫、川原憲行
- 富山県洋画連盟砺波地区チャリティー小品展  
北日本新聞社砺波支社ギャラリー 山本文郎
  - 砺波柳瀬展 砺波市美術館  
山本文郎
  - 砺波市展 砺波市美術館  
審査員出品 山本文郎  
●庄川流域を描く公募展 庄川美術館 山本文郎  
●高職員厚生会展 萩中幸雄
  - 朝日町展 アゼリアホール  
審査員出品 萩中幸雄
  - 滑川市展  
審査員出品 萩中幸雄  
実行委員出品 笹山満義
  - セブクロスツーツ展 新川文化センター美術館  
笹山満義
  - 富山県洋画連盟砺波地区会員展  
北日本新聞社砺波支社 山本文郎
  - 第56回日本版画会展 東京都美術館 永澤一美
  - 第27回志賀町を描く美術展 志賀町会館  
金沢美術工芸大学長賞 永澤一美
  - それぞれの情景展 富山県民会館 川原憲行
  - 11月
  - とやま国際アートキャンプ2015展  
山田交流促進センターささみね  
萩中幸雄、榊田律子、古田恵子
  - 富山県美術連合展 富山県民会館美術館  
萩中幸雄、山本文郎、笹山満義、榊田律子  
永澤一美、丸山敦子、荒井哲夫、古田恵子  
武田清子、池田国男
  - 越中アートフェスタ 富山県民会館美術館  
審査員出品 萩中幸雄  
佳作 古田恵子  
入選 榊田律子、荒井哲夫、丸山敦子、永澤一美  
菊 昌隆、藤木良一、竹中隆男、池田国男  
梶原信男、川原憲行
  - アミカル展 市民プラザギャラリー  
萩中幸雄
  - 富山市民大学文化祭 富山市民プラザ  
萩中幸雄、菊 昌隆、藤木良一、田村昭子
  - 葛の会洋画展 高岡市美術館市民ギャラリー  
竹内隆男
  - 12月
  - 富山市美術展 富山市民プラザ・アートギャラリー  
審査員出品 萩中幸雄  
招待出品 古田恵子、榊田律子  
奨励賞 菊 昌隆  
入選 田村昭子、富岡博子、川原憲行
  - ねいの会作品展 婦中ふれあい館  
荒井哲夫、竹内隆男
  - 射水市名士作家頒布会 高周波文化ホール  
竹内隆男
  - 富山駅北地下道市民ギャラリー展  
駅北市民ギャラリー  
菊 昌隆、藤木良一、寺脇圭子、竹森由紀子

- 竹内隆男絵画展 北陸銀行小杉支店
- 川原憲行作品展 北陸銀行電気ビル支店
- 2016年1月
- 富山市美術連合会展  
萩中幸雄、榊田律子、古田恵子、丸山敦子  
荒井哲夫、武田清子、姫路廣司、菊 昌隆  
寺脇圭子、藤木良一  
(笹山満義・記)

長野支部  
NAGANO

- 活動報告
- 総会準備会 1月24日 油屋
- 総会 3月14日 ホテルニューステーション
- 第48回一陽会長長野展準備会 6月28日  
ホテル信濃路
- 第48回一陽会長長野展 7月21日～26日  
ギャラリー82  
招待作家2点 絵画32点・彫刻2点
- 作品研究会 7月20日 午後1時～4時  
講師 小島鐵男委員 館野弘委員 (28名参加)
- 第61回一陽展 国立新美術館  
会員推挙 岩島謙司  
スカラベ賞 碓田順彦  
会友賞 赤川雅俊  
奨励賞 小野澤猛文、勝山昭子、平坂典子  
丸山チヨ子、本多和子、水上さおり  
初入選 勝山昭子、君島翔太郎、丸山チヨ子
- 公募展
- 第67回長野県美術展 6月28日～7月5日  
松本市美術館  
碓田順彦(無鑑査)、北島英巳、田中 渉  
林 政人、名香山直子、松川勝男、丸山チヨ子  
横山優子、依田千恵子、春原 功(彫刻)
- 第1回菱川賞展 8月11日～14日 鋸南美術館  
奨励賞 垣内カツアキ
- 第66回北信美術展 10月4日～12日  
トイゴ・門前プラザ(25名出品)  
民平賞 荒井正則
- 第68回中信美術展 2016年1月3日～11日  
松本市美術館 やまぐちかずお、林 政人
- 個人・グループ活動他
- 垣内カツアキ風景展(I) 3月20日～6月5日
- 第11回垣内カツアキ スケッチ、デッサン、水彩展 7月17日～8月30日
- 垣内カツアキ風景展(II) 9月2日～10月20日
- 垣内カツアキ展 10月22日～11月30日  
以上 伊那アルプス美術館(箕輪町)
- 春～北信越緑の作家たち 4月28日～5月10日  
アート黒姫(信濃町) 名香山直子
- 島田広之の絵画教室2015 5月4日～17日  
千曲市民ギャラリー
- 第30回如月会展 6月18日～21日  
サンスペース白木屋(辰野町)

- 垣内カツアキ
- 第14回日本美術家連盟 信越、新潟、長野地区  
会員展 7月15日～20日 新潟県民会館
  - とうみ現代彫刻三人展 9月5日～10月25日  
東御市梅野記念絵画館 小林一夫
  - 第48回辰野美術展 10月4日～12日  
辰野美術館 垣内カツアキ(審)
  - 信州コンテンポラリーアート展  
10月28日～11月1日 松本市美術館 林 政人
  - 君島翔太郎 油彩展 10月31日～11月7日  
朝陽館ギャラリー蔵(長野市)
  - 松川勝男展 11月1日～30日  
アート・エム(長野市)
  - 秋～北信越の作家たち 11月1日～8日  
アート黒姫(信濃町) 名香山直子
  - 小島金三 洋画展 12月3日～24日  
画廊カンヴァス城山(長野市)
  - 君島しょうたろう画展 2016年3月1日～7日  
えちぜん画廊(長野市)
  - アート・エム絵画展 3月22日～27日  
ギャラリー82 松川勝男主宰 27名  
(林 政人・記)

中部支部  
CHUBU

- 支部活動 2015年4月～2016年3月
- 第52回中部一陽展 5月5日～10日  
愛知県美術館ギャラリー8F  
(絵画51点・彫刻3点 合計54点)  
〈受賞者(絵画)〉 彫刻は該当者なし
- 中部一陽賞 服部秀勝  
中日賞 鈴木啓子  
東海テレビ放送賞 岡本勇夫  
奨励賞 山田晃平、高橋昭子、志知佳子  
横山満津子
- 会友賞 野田美子
- 夏期総会 7月18日 名古屋市芸術創造センター
- 第42回岐阜一陽展 6月30日～7月5日  
岐阜県美術館  
彫刻 今井田一己、小島健司、森島昭道  
絵画 今井田高江、伊藤知佐子、大橋壯久  
小畑恭子、河井一郎、久保田正剛、小藪達也  
志知佳子、高森和子、常川雅子、西脇義照  
野田美子、山田晃平、横山満津子
- 第61回一陽展 9月30日～10月12日  
国立新美術館  
〈受賞者・初入選者〉  
絵画 会員推挙 野田美子  
会友推挙 岡本勇夫  
奨励賞 山田晃平、小藪達也  
初入選 小藪達也、佐々木美樹子
- 第16回陽友会展 10月20日～25日  
名古屋市民ギャラリー栄

- 伊藤知佐子、大橋壯久、加藤美千代、佐々木美樹子  
志知佳子、鈴木啓子、高橋昭子、高森和子  
常川雅子、中嶋美瑛子、野田美子、服部秀勝  
山田晃平、横山満津子、他5名
- 新年総会 2016年1月23日 開み屋
- 中部一陽展打ち合わせ会 3月26日  
名古屋市芸術創造センター
- 個人活動
- ◇2015年2月
- 木・金絵画展 名古屋市民ギャラリー  
中嶋美瑛子
- 羽島市美術協会展 羽島市文化センター  
今井田一己、小畑恭子、今井田高江
- ◇4月
- 現代作家集団い・な・ざ・わ  
稲沢市荻須記念美術館 中嶋美瑛子
- 春州会展68回 愛知県美術館 中嶋美瑛子
- ネオジャポニズムinタヒチ パパーテ市庁舎  
加藤美千代
- 河井一郎と仲間展  
ギャラリージャック&ベティ  
河井一郎、大橋壯久、山田晃平
- ギャラリー葵 7周年記念展 高森和子
- ◇5月
- 大垣美術家協会展 大垣市文化会館  
久保田正剛、西脇義照
- 一陽会尾張旭グループ展  
尾張旭スカイワードあさひ  
加藤美千代、若杉美智子、松原美幸、竹村公子  
岩田悠子
- 蒲郡文化協会絵画展 蒲郡市博物館 伊藤裕一
- ◇6月
- 「色の力・形の魅力」コレクション展  
大垣市文化会館 久保田正剛
- 一宮総合美術展 一宮文化センター 高森和子
- 第6回水母(くらげ)の会展  
古民家カフェもくせいの花  
伊藤裕一、岡本勇夫、片野泰人、高橋昭子
- ◇7月
- 養老町美術協会展 養老町民ギャラリー  
久保田正剛、西脇義照
- 養老教職員作品展 養老町民ギャラリー  
久保田正剛、西脇義照
- 羽島市美術協会洋画部展 羽島市文化センター  
小畑恭子、今井田高江
- ◇8月
- 西脇義照自選作品展 養老町民ギャラリー  
西脇義照
- 第7回水母(くらげ)の会展 わたなべ珈琲店  
伊藤裕一、岡本勇夫、片野泰人、高橋昭子
- 一宮市美術作家協会展 一宮市博物館 高森和子
- ◇9月
- 2015西濃美術展 大垣市文化会館  
久保田正剛、西脇義照
- 源流展 岐阜県美術館 小畑恭子

- ◇10月
- 養老町美術展 養老町民ギャラリー  
久保田正剛、西脇義照
- 大垣市美術展 大垣市文化会館  
久保田正剛、西脇義照
- 垂井町美術展 垂井町文化会館 西脇義照
- ドゥーナ・アール展(現教育大卒生傘寿記念)  
ギャラリー彩 中嶋美瑛子
- 一宮市美術展 一宮文化センター 高森和子
- ◇11月
- 春州会 秋季展 セントラル・アートギャラリー  
中嶋美瑛子
- 藍画会展 じゅうろくてつめいギャラリー  
河井一郎、大橋壯久、山田晃平
- 蒲郡市民文化祭絵画展 蒲郡市博物館  
伊藤裕一
- 二人展 J A 愛知尾東尾張旭店  
加藤美千代、松原美幸
- 一宮市現代作家美術秀選展 一宮市博物館  
高森和子
- ◇12月
- グループYOU友展 三岸節子美術館  
高森和子、野田美子
- チャリティ色紙展  
○岐阜新聞社 マーサ21(岐阜) 久保田正剛  
○岐阜新聞西濃総局 イオン大垣 久保田正剛  
○毎日文化センター色紙展  
毎日文化センターギャラリー 久保田正剛
- ◇2016年1月
- 「平成27年度長久手市文化の家絵画コンクール」  
佳作 片野泰人
- 8人の女流画家展 ノリタケの森ギャラリー  
加藤美千代
- ◇2月
- 羽島市美術協会展 羽島市文化センター  
今井田一己、小畑恭子、今井田高江
- 日本の美術展 上野の森美術館 加藤美千代
- ◇3月
- 水曜展 名古屋市民ギャラリー 久保田正剛
- 一宮美術作家協会展 一宮市博物館 高森和子  
(小畑恭子・野田美子 記)

神奈川支部  
KANAGAWA

- 活動報告
- 研修会 7月26日 かながわ県民センター
- 活動報告及び忘年会 12月10日 煌欄
- 第61回一陽展 受賞者  
会員推挙 菅原礼子  
会友推挙 後藤静子  
スカラベ賞 佐々木英夫  
会友賞 緒方かおる  
奨励賞 久留宮和子

- 個人及びグループ活動
- 「彫刻と素材-伝えたいかたち-」展  
4月2日～11日  
画廊珈琲 zavoff 一陽会の作家-  
岩壁善兵衛、衛守和佳子
- 猫あーと展 4月11日～5月18日  
北鎌倉古民家ミュージアム (NEKO EXPO主催)  
緒方かおる
- 塩川慧子展 4月13日～18日 みゆき画廊  
塩川慧子
- 第11回蒼の会展 5月11日～16日  
銀座スルガ画廊  
磨井静子、内山靖子、菅原礼子、高瀬和夫  
千坂 健、茶畑顕子、平野昭子、伏見伸彌
- ハマ展会員友展 5月13日～19日  
ギャラリーびお 村杉哲子
- NEKO EXPO IN MAEBASHI 5月16日～31日  
前橋文学館3階ギャラリー (前橋ポエトリー・  
フェスティバル2015) 緒方かおる
- 第34回みずゑ展 5月17日～23日  
Gallery F.ROUTE 三原路子
- 村杉哲子個展 光の舞 5月31日～6月6日  
ギャラリー青羅 村杉哲子
- 第1回創生の輪展 6月8日～14日  
画廊 楽 塩川慧子
- 第33回茅ヶ崎美術家協会展  
6月16日～7月11日 茅ヶ崎美術館 横須賀康子
- 第69回女流美術家協会展 6月29日～7月5日  
東京都美術館  
塩川慧子、久留宮和子  
後藤静子(クサカバA賞)、竹内とく恵
- 詩画展 7月13日～19日 画廊 楽 村杉哲子
- 女流画家協会宇都宮展 7月15日～20日  
栃木県総合文化センター2F3・4ギャラリー  
塩川慧子
- 第5回女流吉象展 7月26日～8月1日  
銀座ギャラリームサシ 塩川慧子
- 第1回菱川賞展 8月1日～14日 鋸南美術館  
横須賀康子(佳作賞 版画)
- 第9回アートバザール展 8月3日～9日  
ギャラリー八重洲・東京 緒方かおる
- 第2回NEKOISM公募展 8月20日～23日  
ギャラリーやさしい予感 (NEKO EXPO主催)  
緒方かおる
- 個の屹立展 9月14日～19日 ギャラリー暁  
村杉哲子
- 第55回神奈川県女流美術家協会展  
10月21日～26日 横浜市民ギャラリー  
後藤静子
- 玉川学園ギャラリートーク  
10月24日～11月3日 アートスペースMATHUI  
衛守和佳子
- 第71回ハマ展 11月4日～15日  
横浜市民ギャラリー 緒方かおる、村杉哲子
- 女流画家協会2015相模原展

- 11月20日～12月1日 相模原市民ギャラリー  
塩川慧子、後藤静子
- 国際野外の表現展 11月29日～2016年8月31日  
東京電機大学鳩山校舎 衛守和佳子
  - ガラス絵馬展 12月7日～13日 画廊 楽  
村杉哲子
  - 2016新春ギャラリー展 鎌倉美術連盟創立20周年記念 1月5日～11日  
鎌倉生涯学習センターギャラリー 横須賀康子
  - 佐々木英夫作品展 1月6日～12日  
鎌倉芸術館ギャラリー2 佐々木英夫
  - みゆき画廊50周年記念展 1月12日～23日  
みゆき画廊 塩川慧子
  - 第14回NAU21世紀美術連盟展  
2月3日～15日 国立新美術館  
塩川慧子、村杉哲子  
(横須賀康子・記)

千葉支部  
CHIBA



- 支部活動
- 幹事会 2月1日 ホテルポートプラザちば
- 総会・新年会・会友展打ち合わせ 2月1日  
ホテルポートプラザちば
- 千葉一陽会会友展 3月12日 画廊ジュライ  
(会友16名)
- 準備会(第38回千葉一陽展について) 3月28日  
蘇我勤労市民プラザ
- 第38回千葉一陽展 6月15日 千葉県立美術館  
ギャラリートーク(本部より泉谷淑夫・館野 弘  
運営委員も招聘)・授賞式・懇親会 6月20日  
レストランほてい家
- 第61回一陽展に向けての資料仕分け 8月9日  
蘇我勤労市民プラザ(会員・会友)
- 幹事会 12月1日 千葉市美術館講堂
- 個展
- 小嶋英子作品展 4月14日  
千葉県文化会館ギャラリー
- 細川 尚素描&油彩展 5月30日  
木更津わたくし美術館
- 永倉一徳作品展 7月7日  
千葉県文化会館ギャラリー

- 福田利明展 10月30日 ギャラリー睦
- 香焼直美展 11月30日 ギャラリーセイコウドウ
- グループ展・その他
- 日本ガラス絵協会展 1月5日 井上画廊  
石川三知代、川口文字、古賀敦子
- 洋画グループ展 1月5日 千葉信用金庫  
里地芳美
- MOVE展 IN 上海 1月10日 上海風月舎画廊  
大北節子
- 福島県在京美術家協会展 1月12日  
ギャラリー白百合 濱田 清、山口陽子
- 一権会展 2月19日 画廊ジュライ  
講師：濱田 清
- 第4回彩友会展 3月3日 千葉市青葉の森公園  
永倉一徳 主宰
- 8人の女流作家展 IN 千葉 3月19日  
画廊ジュライ 大久保綾子
- DU NORD展 3月23日 井上画廊  
小嶋英子、坂井幸子、本間くみ
- 2015暁展 3月23日 ギャラリー暁  
福田利明、大北節子
- ガラス絵コクリコ会創立29年展 4月14日  
千葉県立美術館 石川三知代 主宰
- 県庁ロビー・作品展示 5月1日 県庁ロビー  
安田 操、細川 尚
- 皐月展 5月19日 ギャラリー金巴里 細川 尚
- 八鶴会展 6月16日  
DIC川村記念美術館ギャラリー 川上弘子
- みなづき展 6月16日 ギャラリー金巴里  
細川 尚
- アトリエこうたき展 6月23日  
きぼーる1階アトリウム 香焼直美 主宰
- 野田美術会展小品展 6月23日  
興風会館地下ギャラリー 鹿又保子
- 彩の会展 6月30日  
君津市生涯学習交流センター 細川 尚 主宰
- Water Color 千葉 7月7日  
千葉県立美術館 鹿又保子
- 日本ガラス絵協会展 7月13日  
gallery一枚の繪  
石川三知代、川口文字、古賀敦子
- ante展 7月20日 Salon de G 大北節子
- 彩趣会絵画展 7月29日



- 野田市役所ふれあいギャラリー 鹿又保子 主宰
- G. グローバー展 8月24日 茂原市美術館  
川上弘子
- 風月舎 IN New York展 9月29日  
Caelum Gallery 大北節子
- MOVE展 IN TOKYO 10月16日  
サロン ドゥ ラー 大北節子
- 2015金巴里展一部・二部 10月27日  
ギャラリー金巴里 会員、会友、同人多数出品
- November展 11月16日 ギャラリー暁  
大久保綾子、大北節子
- 野田美術会展 11月25日  
さわやかちば県民プラザ 鹿又保子
- 洋画小品展フェーズ30 11月26日  
画廊ジュライ 福田利明
- コンクール・その他
- 千葉市展 3月7日  
千葉市美術館市民ギャラリー  
千葉市美術館長賞 小澤賢佑  
奨励賞 須藤健夫  
会員推挙 香焼直美
- 総美展 6月15日 五井会館  
優秀賞 里地芳美
- 第1回菱川賞 8月1日 鋸南美術館  
審査員賞 大久保綾子、河野緋紗子、川上弘子  
優秀賞 宇梶陽子、里地芳美、山口陽子  
佳作賞 岩田明美  
奨励賞 吉田静江、鈴木 豊
- 猫たちの遊々展 9月23日 ほくさい美術館  
私の好きな作品大賞 山本映子
- 第65回記念千葉県展 9月26日  
千葉県立美術館  
(会員以上 無鑑査)  
松戸市長賞 河野緋紗子  
野田市長賞 立花大聖(日本画)  
会員推挙 佐々木英子  
常任理事出品 小島鐵男、濱田 清  
理事出品 細川 尚、大久保綾子、田沼和夫  
福田利明
- 会員出品 大北節子、金網照夫、小嶋英子  
坂井幸子、永倉一徳、山口陽子  
岩田明美、宇梶陽子、楠 忠臣  
斉藤光彦、宍倉綾子、鈴木利久  
山田久子、山本映子、川上弘子  
山崎泰司、里地芳美
- 入選 篠崎 聡、小澤賢佑、須藤健夫  
黒川正巳、吉田静江、鈴木 豊  
渡邊ひろ子
- 第65回記念県展選抜展 10月20日  
千葉県立美術館 大北節子、小嶋英子
- 市原市美術展 10月30日 五井会館  
準大賞 里地芳美
- 金谷美術館コンクール 12月19日 金谷美術館  
大賞 立花大聖  
銅賞 岩田明美  
(濱田 清・記)

茨城一陽会  
IBARAGI



- 活動報告
- 2015年
- 茨城一陽会絵画部展 3月30日～4月4日  
井上画廊(東京都中央区銀座)  
雨谷達夫、阿部 進、宇留野信章、館野 弘  
樋口三千代、小川京子
- 彫刻と素材～伝えたいかたち～一陽会の7作家  
4月2日～11日 画廊珈琲zaroff(東京都渋谷区  
初台) 北沢 努、葛迫大祐(他5名)
- 中村義孝彫刻展 5月11日～28日  
天王洲セントラルタワー(東京都品川区)  
中村義孝
- 北沢 努展～素描と彫刻～ 6月6日～14日  
ノブズギャラリー&カフェ(茨城県笠間市)  
北沢 努
- 北沢 努・制作展 7月3日～26日  
ギャラリーパレンド(茨城県笠間市)  
北沢 努
- 第43回MITO彫刻展 7月3日～8日  
アートセンタータキタ(茨城県水戸市)  
海老根美奈子、小宅淑子、北沢 努、篠原 洋  
六崎敏光、村山悦子、森山元國
- 筑西の美術 7月19日～9月6日  
しもだて美術館(筑西市) 館野 弘、小川京子
- 第11回茨城一陽展 今、つたえたいもの～表現  
の深化・茨城から～ 8月11日～16日  
つくば美術館(茨城県つくば市)  
阿部 進、雨谷達夫、磯山芳男、飯田政子  
宇留野信章、海老根美奈子、小川京子、小宅淑子  
北沢 努、葛迫大祐、小坂和美、小田部 実  
酒井耕太、篠原 博、清水紀子、鈴木しのぶ  
館野 弘、中村義孝、樋口美千代、深谷直之  
村上悦子、六崎敏光、森山元國、谷津喜美代、  
山口 功 招待作家2名
- 小川京子個展 夜想曲 10月22日～27日  
画廊珈琲zaroff(東京都渋谷区初台) 小川京子
- 第44回グループSABO展 10月23日～28日  
アートセンタータキタ(茨城県水戸市)  
海老根美奈子(出品者4名)
- 第15回アートグループQ絵画展



- 10月27日～11月1日  
古河街角美術館（茨城県古河市）  
阿部 進（出品者22名）
- 第15回彩の会展 11月8日～14日  
ギャラリーオンズ（茨城県筑西市）  
阿部 進（出品者12名）
- 蠟型ブロンズによる人体表現「凧」～北沢 努展  
11月22日～29日 ギャラリー手鞠子（茨城県水戸市） 北沢 努
- YEAR-END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES 12月7日～22日  
ギャラリーせいほう（東京都銀座） 中村義孝
- ちょっと小さな展覧会 12月15日～30日  
ギャラリーサザ（茨城県ひたちなか市）  
北沢 努、六崎敏光（他約80名）

2016年

- チャリティー茨城新聞社色紙作品展  
1月2日～3日 京成百貨店（茨城県水戸市）  
小宅淑子、北沢 努、中村義孝、六崎敏光（他300名）
- 先生たちの美術展4 1月11日～17日  
古河街角美術館（茨城県古河市）  
田邊光則、飯田政子（他24名）
- 第9回現代茨城作家美術展 1月23日～2月14日  
茨城県近代美術館（茨城県水戸市）  
館野 弘、宇留野信章、中村義孝、六崎敏光（他96名）
- 第5回古河の絵画美術展 1月23日～3月6日  
古河街角美術館（茨城県古河市） 阿部 進
- 第23回土なま彫塑展 3月6日～12日  
東海ステーションギャラリー（茨城県那珂郡東海村）  
北沢 努、村山悦子、谷津喜美代、鈴木しのぶ、葛迫大祐（他約10名）  
（森山元國・記）

新潟一陽会

- NIIGATA
- 活動状況
- ガラス絵画展 2月 ギャラリーやまぼうし  
高橋洋子
- 第25回新潟一陽会展 4月28日～5月2日  
新潟県民会館 新潟一陽会全会員
- 第70回新潟展 6月5日～14日 阿部克志
- 第40回個展 6月6日～30日 山本安雄
- アーティスト25人プリマ展 7月2日～19日  
ギャラリーやまぼうし 市橋哲夫
- 恒久平和展 7月10日～8月6日  
パリのマドレーヌ寺院 木村保夫
- 第14回日本美術家連盟信越地区会員展  
7月15日～20日 新潟県民会館  
千野清和、桑原 牧、山本安雄、木村保夫、市橋哲夫、北村五十一
- 鈴木 力の版画の世界展 7月24日～8月30日  
弥彦の丘美術館

- 文学と版画展 9月 ギャラリー志門 高橋洋子
- 南魚美術展 9月9日～13日  
桑原 牧、山本安雄
- 第19回今展 9月18日～21日 加茂文化会館  
千野清和
- 第1回新潟アートサーカス設立記念展  
10月8日～14日 旧新潟大和デパート2F  
市橋哲夫
- 南魚美術協会展 10月10日～12日  
桑原 牧、山本安雄
- 第47回新潟市美術協会展 10月14日～25日  
高山久子、阿部克志、佐藤幸雄
- 弥彦神社・御遷座百年記念 10月15日  
蒼天に輝く P100号奉納 鈴木 力
- 銅版画個展 1月 ギャラリー万代島 高橋洋子
- 巻地区文化祭 11月7日～8日 新潟市巻公民館  
長谷川清晴、山下紀枝子、八木ウメ
- 越後湯沢全国童画展 11月17日～12月6日  
新潟ふるさと村アピール館 長谷川清晴
- 市橋哲夫個展 11月19日～27日  
ギャラリーやまぼうし
- 新潟県美術家連盟 芸展 11月22日～29日  
千野清和、長谷川清晴、桑原 牧、木村保夫
- 長岡市美術協会洋画部展 12月2日～6日  
長岡市美術センター 木村保夫
- 新人事  
新潟一陽会代表 千野清和  
副代表 長谷川清晴  
新潟一陽会展実行委員長 市橋哲夫  
事務局長 北村五十一  
事務局次長 生田目温子  
会計 石塚ホゾエ  
広報 千野清和、高橋洋子  
展示 長谷川清晴、桑原 牧  
地区幹事 木村保夫（長岡）、桑原 牧（魚沼）  
北村五十一（佐渡）、市橋哲夫（新潟）  
監事 桑原 牧、高山久子  
（北村五十一・記）

高知一陽会

- KOCHI
- 活動の経過
- 勉強会 7月13日
- 一陽会高知'15展 7月14日～19日  
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
- 活動の総括
- グループ展（一陽会高知'15展）  
27回目のグループ展。高知一陽会メンバー5名が、秋の本展出品予定作品も含め各2～5点を持ち寄り、陳列展示した。
- 勉強会  
上記グループ展陳列終了後、展示会場にて各出品作品について率直な指摘と意見の交換を行った。
- 個人的活動

- 洋画グループ彩第13回小品展 5月12日～17日  
ギャラリーkunstブラッツ（高知市）  
大黒郁代
- 香美市立美術館企画安藤義孝展 抽象の世界  
10月6日～11月29日 奥物部美術館（高知県香美市） 安藤義孝
- 第69回高知県美術展覧会 10月9日～25日  
高知県立美術館（高知市）  
安藤義孝〈入選〉、大黒郁代〈無鑑査〉、末田光一〈無鑑査〉、寺尾立子〈褒状〉、平田慎一〈褒状〉
- 写実絵画の力 2月6日～3月13日  
香美市立美術館（高知県香美市） 平田慎一
- 第35回高知県女流展 3月12日～21日  
高知県立美術館（高知市）  
大黒郁代〈無審査〉  
（末田光一・記）

青森一陽会

- AOMORI
- ◇6月
- 打ち合わせ会  
会場 青森市内  
小品展については今年度は休止し、来年度からの小品展については、後日検討することになった。
- ◇7月
- 第37回青森一陽会展 青森市民美術展示会  
60号～130号の作品22点展示
- ◇8月
- 第63回青森美術会平和展  
青森市民美術展示館  
笹森真紀子、対馬玲子、対馬久世喜
- ◇10月
- 第27回社会福祉協議会チャリティ色紙展  
社会福祉協議会大広間
- ◇11月
- 第45回教美展 ワラッセ  
中嶋 強、逢坂清悦、新戸部一弘、笹森真紀子、土岐千佳子
- クロッキーの会、デッサン会、写生会等の研究会には積極的に出席している。  
（対馬久世喜・記）

秋田一陽会

- AKITA
- 支部活動
- 二人展 4月 秋田銀行御野場支店  
菅野 操、高橋章子
- 第32回グループ展（石川恭子主宰） 5月  
秋田アトリエ  
石川恭子、平元美智子、前野恒子
- 石川恭子 講師 合同展 5月 大西暢子
- 合同絵画展（榎 江里子・松山桂子主宰） 6月  
秋田アトリエ

- 榎 江里子、松山桂子、菅野 操
- 秋田県展 6月 秋田アトリエ  
入選 平元美智子
- 鍛南美術館「菱川賞」展 6月  
石川恭子
- 石川恭子小品展 8月 北都銀行土崎支店  
石川恭子
- 菅野 操作品展 9月 秋田市光ほう苑  
菅野 操
- 第61回一陽展（本展） 10月 国立新美術館  
会友推挙 松山桂子  
入選 大西暢子、前野恒子、平元美智子
- 秋田国際美術家協会展 10月 秋田アトリエ  
石川恭子、高橋章子
- 一陽会秋田展 11月 秋田アトリエ  
石川恭子、榎 江里子、菅野 操、高橋章子、松山桂子、大西暢子、前野恒子、平元美智子
- 秋田魁新報社主宰 小説挿絵12回シリーズ 担当 11月 石川恭子
- 第59回秋田美術作家協会展 12月  
秋田県立美術館  
奨励賞 松山桂子  
榎 江里子、菅野 操、高橋章子
- 秀作美術展 3月 秋田県立美術館 高橋章子  
（榎 江里子・記）

福岡グループ

- FUKUOKA
- 第61回一陽展 10月 国立新美術館  
特待賞、会友推挙 山崎千代香
- 市民センター文化祭絵画作品展 11月7日～8日  
生嶋香津子、則松順子、山崎千代香、前田 睦
- 碧の風 絵画作品展 11月17日～12月6日  
「地底の息吹」 前田 睦
- 日光東照宮徳川家康公鎮座400年記念 12月  
平成28年奉納カレンダー貢献之証  
「月影」 前田 睦
- 正圓寺全景 1月  
お寺の住職様から依頼を受けて描く 前田 睦  
（前田 睦・記）

山梨グループ

- YAMANASHI
- 東京支部展 4月 三井正人（彫刻部会員）
- 峡北美術協会展 5月 市村四方子（会友）
- 山梨美術協会展 6月 三井正人
- 山梨県民文化祭 10月三井正人、吉田光雄（委員）
- やまなしの作家たち—2015— 11月  
三井正人、吉田光雄
- 山梨県文化功労奨励賞 吉田光雄
- 山梨美術協会会員展 2月 三井正人  
（吉田光雄・記）

岡山グループ  
OKAYAMA

- 美しい驚き 泉谷淑夫展 2~3月  
広島・八千代の丘美術館
- 第53回関西一陽展 3月 大阪市立美術館  
大阪市長賞 横山瑞歩  
奨励賞 後藤 杏
- 陽のあたる岡 第5回記念展 5月  
岡山県天神山文化プラザ  
泉谷淑夫、前島英輝、日向啓江、伊丹 脩  
孫 鵬、石原夕起子、瀧浦光樹、妹尾佑介  
今浦 稔、皆見昌信、後藤 杏、横山瑞歩  
出品  
※本部より細川 高運営委員を講師として招待
- 公募団体ベスト・セレクション2015展 5月  
東京都美術館  
アーティストトーク 選抜出品 泉谷淑夫
- 第29回 泉谷淑夫個展 8月 ギャラリー倉敷
- 第66回岡山県美術展 9月 岡山県立美術館  
審査員出品 泉谷淑夫  
招待出品 前島英輝  
招待出品 伊丹 脩

- 山陽新聞社賞 横山瑞歩  
奨励賞 後藤 杏  
奨励賞 妹尾佑介
- 第59回一陽展 10月 国立新美術館  
青麦賞受賞 横山瑞歩
- アートの交差点VOL.4 ひとりのみち展 10月  
選抜出品 横山瑞歩
- 第1回陽のあたる岡・小春日和展 11月  
(ギャラリー倉敷)  
泉谷淑夫、前島英輝、日向啓江、伊丹 脩  
孫 鵬、石原夕起子、妹尾佑介、今浦 稔  
皆見昌信 後藤 杏 横山瑞歩 出品



(カット・細川 尚)

コラム  
『陽溜り』

一陽 編集子

“永い間、ありがとうございました”

当会報の担当責任として、早いもので11年の歳月が流れました。個々の原稿執筆依頼や編集レイアウト・校正等々、また写真撮影の協力や提供など、幾人もの会友・会員・委員の方々へ一方ならぬお世話になりました。私の監督下で、往時の編集スタッフの交代劇などもあり、決して平穩無事ばかりではありませんでしたが、それでも嬉しい思い出の方が勝っていました。今回no.51号を持ちまして会報担当の編集責任を辞する事と致します。

また、原稿担当で献身的な尽力を下された山田久子会員も、同じく新しい担当者へと交代いたします。山田さん永い間、誠にありがとうございました。ここ数年一陽会は、会組織の上下関係が和らいで、いわゆる権威的な政治力志向?が払拭されて、とても風通しが良くなったと耳にします。展示会場は、より作品本位で若手や新人を抜擢しています。アートの世界に上意下達ほど似つかわしく無いモノはありません。この事は62年間で勝ち得た一陽会の宝物だと思います。そして益々、会組織の柔軟性と透明性は高まってゆく事でしょう。会報も新たなスタッフのもと、従来のカタチにこだわらず、思う存分編集に新風を送ってくれるに違いありません。一陽会会報の更なる発展を祈念いたします。謝謝...



絵画と彫刻が互いに刺戟し合う...、一陽展会場  
撮影・宮坂和子会員

★次回原稿締め切り★  
2017年1月末日

〒921-8055 石川県金沢市西金沢新町101  
TEL&FAX 076-280-9660 携帯080(1951)0853  
絵画部会員 白井正浩まで

彫刻部研修会報告

彫刻部運営委員 中村 義孝 彫刻部会員 土井 敬真・安田 操

2015年12月5日(土) 14:00~16:00  
東京都美術館スタジオにて  
講演「彫刻の可能性 一現代美術の視点から」  
講師 女子美術大学教授・武蔵野美術大学客員教授  
南 薫 宏 氏



講師 南 薫 宏 氏

2015年12月5日に16回目の彫刻部研修会が開催されました。今年(2015年)は女子美術大学教授・武蔵野美術大学客員教授である南薫宏氏を講師に迎えて「彫刻の可能性一現代美術の視点から」をテーマに講演をしていただきました。

講演はいわき市立美術館、広島市現代美術館、熊本市現代美術館など、これまでに南薫先生が立ち上げに参加された美術館についてどのような経緯でそのプロジェクトに参加されたのか、展示や作家のエピソードを交えながらそこに彫刻作品、彫刻家とは...といった視点も交えながらお話していただきました。

「芸術とは帰ってくる人間を招き入れてくれるもの・場所」。「(作品・芸術が)どこを故郷として生まれてきたのか?」というように講演の中では「故郷・居場所」という言葉が印象的に用いられていました。指ではなく舌で点字を読み取る舌盤のエピソードの中で「彫刻をどの器官で造るのか?何かに触れる。世界に触れる。手が便利だから手で造っているのは思い違いではないか?」という発言にハッとさせられ、続く「モノを造り出す故郷の多様性は私たちは忘れ去ってしまっていたのではないだろうか?」という言葉が非常に重みを持って心に残るものとなりました。また、「彫刻とはこういうものだからと芸術がいかにか狭い領域の中だけで他を排除してきたのか」といった問題点にも触れられ、「もっと緊張感を持って、必然性を持って、立ち上がるものを突きつけられるものが彫刻ではないか」という先生の彫刻に対する厳しさも含んだ独自の視点を伺うことができ、参加者それぞれが自身の制作、彫刻というものに対する考え方を改めて考え直すきっかけともなりました。

講演会の最後に会友・一般の参加者が9月の第61回一陽展に出品した作品を講評していただきました。プロジェクトで映し出された作品画像を基に、一人ひとり丁寧に作者と対話しながら講評していただき、研修会がより充実した内容のものとなりました。

この報告書が完成する前に先生の突然の訃報(1月10日脳梗塞のため逝去)に接することになりました。わずか1か月前にあんなに力強く講演されていたことを思い起こすととても信じられませんでした。おそらく一陽会彫刻部の研修会での講演が先生の最後の講演になったのかもしれない。「排除されたもの達」に対し常に温かい眼差しを向け、それが先生の展示企画活動の中核をなしていたのだということ、今回のお話を聞いて改めて知ることになりました。また、我々作家は何を考え、どう社会的に活動すべきか、いろいろな問題を突きつけられたように思います。さらに海外展示会や作品の收藏の件などの話にもおよび、今年の一陽展企画で先生をお招きしパネルディスカッションが持てたらと胸を膨らませていたところでした。今後は、先生からいただいた宿題を我々なりに噛み締め、問いに対する答えを模索していこうと考えています。



## 小松富士子個展 ー過去・現在 振り返ってー

2015年12月25日～27日 川口市立アートギャラリー・アトリアにて開催

会員としての小さな協力、'14、'15 のカタログの広告ページに個展の案内を致しました。今回は '15 年の師走中甸からの2週間を川口市立アートギャラリー・アトリアにて行ないました。深い考えも無く宣伝の文言に『過去・現在 振り返って』としました。搬入日が近づくにつれ気持ちは揺れにゆれさあ大変、何せ後期高齢者突入の私、キャリアだけは長いのです。でも作品の質は NON キャリア? そもその話、貴女の大作にはこの美術館仕様のギャラリーが最適ですとディレクターで石の彫刻家小野寺優元氏からのお誘いが出発点でした。特に“大作の発表の場”の言葉を押して頂いたと感じたのです。美術館仕様のギャラリー・アトリアは高い天井に太く見事な木材が豊かに並び少し古色の風情を



水のアラバスクー少しの雪と雨のち晴れ(アレントウンにて1月22日)



見せる梁は重量のオブジェを吊るす或いはインスタレーションも可能とか、普段の美術館では難しい事でしょう。さて私の会場作りは展示及び撤収作業の全てを仕事に精通している友人と業者で行なわれましたので満足度充分でした。中野から川口まで何とか通う中で“行ってしまえば” 中々魅力ある振興地、アトリアのガラス張りの廊下より見る風景は遠方に向けて小高くなる芝生の広場に沢山の子供達の群れ、その中から興味を持って勢い良く入って来る彼らの為に少しだけ作品を低めに設定、特に幼児の感性の源になる様にと願うのは楽しい事です。又会場の広さと落書きが来場者の方々とのコミュニケーションに親しみやゆとりを倍増させ寛ぎとした、時間の流れを良しと後輩の感想から結果オーライと思う事に致します。

## イタリア・日本巡回展示 ーイタリア式蠟型鑄造による新しい彫刻表現の可能性ー

### 中村義孝彫刻展

ローマ：ヴェナンツォ・クロチェッティ美術館 2014.9.12～10.24

東京：天王洲セントラルタワー アートホール 2015.5.11～5.28

長年にわたりイタリア式の蠟型鑄造技法を駆使し、原形制作から仕上げまで一貫して自分の手で行う制作のスタイルを取ってきました。そうすることでブロンズに生命の息吹を与え、堅牢で魅力ある彫刻の制作を目指してきました。2014年9月12日より10月24日までヴェナンツォ・クロチェッティ美術館(ローマ/イタリア)の企画で中村義孝彫刻展(YOSHITAKA NAKAMURA Mostra scultorea)が開催され、日本の伝統に根差した彫刻造形と、イタリア式蠟型鑄造によるブロンズ彫刻表現は本場イタリアでも一定の評価を得たように思います。

2015年の天王洲セントラルタワー アートホールの展示は、ヴェナンツォ・クロチェッティ美術館で展示した10点を中心と

し、それ以後の作品や新作も交えたものとなりました。イタリアでの展示会の成果と、今後の制作の展望も示せたことで、私にとっては節目の展示会となりました。なお、ローマ及び東京での展示会会期中に、作品の制作法や、彫刻を通じたイタリアと日本の交流などのテーマでレクチャーもおこないました。



クロチェッティ美術館 講演会



天王洲セントラルタワー 展示風景



クロチェッティ美術館 展示風景

企画・発行／一陽会

編集責任／細川 尚 原稿担当／山田久子

写真提供／宮坂和子・棚倉英雄・アートデザインセンター

制作・印刷／大和美術印刷株式会社 発行日／2016年4月10日

一陽会事務所

〒920-1161 石川県金沢市鈴見台3-19-25 バルテサイングループ 大場 吉美 方

TEL 076-222-2231 FAX 076-261-0029 (展示会中は会場事務所)

<http://www2.ucatv.ne.jp/~itiyokai.snow/>